

盛南地区遺跡群発掘調査報告書ⅩⅢ

—道明地区土地地区画整理事業関連遺跡平成 30・令和元年度発掘調査—

細谷地遺跡

2021.1

盛岡市・盛岡市教育委員会

序

盛岡市は、東北地方の東部を南北に縦断する北上川と、その支流である雫石川・中津川が合流する地点に中心市街地が形成され、北に雄大な岩手山と姫神山を望む、岩手県の県庁所在地です。その都市骨格は、約400年前に戦国大名南部氏により築城された総石垣の盛岡城を中心とした城下町であり、藩政そして明治以降は岩手の県政の中心として、また交通の要衝として栄えてきました。

平成になると、平成4年に南の都南村と、平成18年に北の玉山村と合併。人口約30万人、面積約886平方キロメートルという北東北の拠点都市へと成長し、平成20年4月には中核市へ移行しました。平成23年に未曾有の大被害を受けた東日本大震災後、着実に復興を果たし、平成28年には「希望郷いわて国体・いわて大会」が県内各地を会場に開催され、盛岡市では冬季のスケート・アイスホッケー、本大会の水泳・サッカー・テニスのほか多くの種目の選手・役員の方々をお迎えしたところがあります。

昭和の時代から盛岡市が都市として成長する中、将来の発展を見据え、既存の中心市街地の南西部、雫石川の南に広がる一帯に新市街地を形成しようと計画されたのが「盛南開発構想」です。その大部分は、独立行政法人都市再生機構(旧地域振興整備公団)が事業主体となり「盛岡南新都市(愛称:ゆいとびあ盛南)」が整備され、平成25年度に事業完了しています。道明地区は、その盛岡南新都市の南東部に隣接しており、都市基盤づくりのひとつである「盛岡南地区都市開発整備事業」の一環として、施行面積21.7ヘクタールの土地区画整理事業が進められてきました。

この事業に伴い、当該区域内に所在する埋蔵文化財包蔵地のうち、整備工事により消滅を余儀なくされる遺跡の発掘調査を、平成20年度から当市教育委員会が行い、現在も継続しております。

本報告書は、平成30年度と令和元年度に実施した細谷地遺跡の調査成果について報告するものです。市民の皆様をはじめ、各学校や教育機関・研究者等の方々に、当該地域の歴史を知るための資料としてご活用いただければ幸いと存じます。

最後になりましたが、発掘調査を実施するにあたり、多大なるご協力やご指導を賜りました岩手県教育委員会生涯学習文化財課、公益財団法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターに対し深く感謝申し述べると共に、発掘調査にご理解とご協力をいただきました地権者各位ならびに地元関係者の皆様に厚く御礼申し上げます。

令和3年1月

盛岡市教育委員会

教育長 千葉 仁一

例 言

- 1 本書は、岩手県盛岡市本宮・向中野・飯岡新田ほかに所在する盛南地区遺跡群において、「道明地区土地区画整理事業」に伴い平成30・令和元年度に実施した発掘調査の報告書である。なお、「盛南地区遺跡群」の名称については、盛南開発地区内に所在する計18遺跡（大宮北、小幅、宮沢、鬼柳A、本宮熊堂A、本宮熊堂B、稲荷、野古A、飯岡沢田、飯岡才川、台太郎、向中野館、細谷地、矢盛、焼野、夕覚、南仙北、向中野幅）を包括する総称として使用し、本書ではそのうち細谷地遺跡の調査成果を報告する。
- 2 本書の編集及び刊行事務は盛岡市遺跡の学び館が行い、編集・執筆作業を津嶋知弘が担当した。
- 3 遺構平面位置は、日本測地系 平面直角座標X系を座標変換した調査座標で表示した。
 - ・調査座標軸は、日本測地系第X系に準じる
 - ・調査座標原点 細谷地遺跡 $X - 35,000 \quad Y + 26,000 \rightarrow R X \pm 0 \quad R Y \pm 0$
- 4 高さは、標高値をそのまま使用した。
- 5 土層断面図は堆積のしかたを重視し、線の太さを使い分けた。層相の観察にあたっては『新版標準土色帖』（農林水産省農林水産技術会議事務局監修）を使用した。
- 6 出土遺物の実測図化・トレースは、(株) タックエンジニアリングに委託した。
- 7 出土遺物の写真撮影は、津嶋知弘が行った。
- 8 発掘調査に伴う出土遺物及び諸記録は、盛岡市遺跡の学び館で保管している。
- 9 当該調査の一部については、現地説明会資料等により報告しているものもあるが、本書の記載内容をもって訂正する。

細谷地遺跡に係る発掘調査報告書（盛岡市教育委員会）

- 2009年3月『盛南地区遺跡群発掘調査報告書Ⅱ－盛岡南新都市開発整備事業平成5～12年度発掘調査②－稲荷遺跡・本宮熊堂A遺跡・本宮熊堂B遺跡・野古A遺跡・飯岡沢田遺跡・飯岡才川遺跡・向中野館遺跡・細谷地遺跡・矢盛遺跡・南仙北遺跡－』〔細谷地遺跡2次〕
- 2014年3月『盛南地区遺跡群発掘調査報告書Ⅵ－盛岡南新都市開発整備事業平成13～18年度発掘調査③－飯岡沢田遺跡・飯岡才川遺跡・細谷地遺跡・矢盛遺跡・南仙北遺跡－』〔細谷地遺跡11次〕
- 2015年3月『盛南地区遺跡群発掘調査報告書Ⅶ－盛岡南新都市開発整備事業平成19～21年度発掘調査－大宮北遺跡・小幅遺跡・宮沢遺跡・本宮熊堂B遺跡・台太郎遺跡・飯岡沢田遺跡・飯岡才川遺跡・細谷地遺跡・矢盛遺跡・夕覚遺跡－』〔細谷地遺跡21～23次〕
- 2017年3月『盛南地区遺跡群発掘調査報告書Ⅸ－盛岡南新都市開発整備事業平成22～24年度発掘調査②－細谷地遺跡・矢盛遺跡・焼野遺跡－』〔細谷地28・31次〕
- 2018年3月『盛南地区遺跡群発掘調査報告書Ⅹ－道明地区土地区画整理事業関連遺跡平成20～26年度発掘調査－細谷地遺跡・夕覚遺跡－』〔細谷地29・30・32～34次〕
- 2019年2月『盛南地区遺跡群発掘調査報告書Ⅺ－道明地区土地区画整理事業関連遺跡平成27・28年度発掘調査－細谷地遺跡－』〔細谷地35・36次〕
- 2020年2月『盛南地区遺跡群発掘調査報告書Ⅻ－道明地区土地区画整理事業関連遺跡平成29年度発掘調査－細谷地遺跡－』〔細谷地37次〕

目次

第1章 経過

第1節 事業の経過	1
第2節 発掘調査の経過	2
第3節 体制	3

第2章 遺跡群の位置と環境

第1節 地理的環境	5
第2節 歴史的環境	5

第3章 調査成果

第1節 細谷地遺跡の立地と概要	7
第2節 調査内容	
(1) 第38次調査（平成30年度）	7
(2) 第40次調査（令和元年度）	12

第4章 総括

1 調査のまとめ	14
2 細谷地遺跡出土の近現代遺物	15

写真図版

報告書抄録

表 目 次

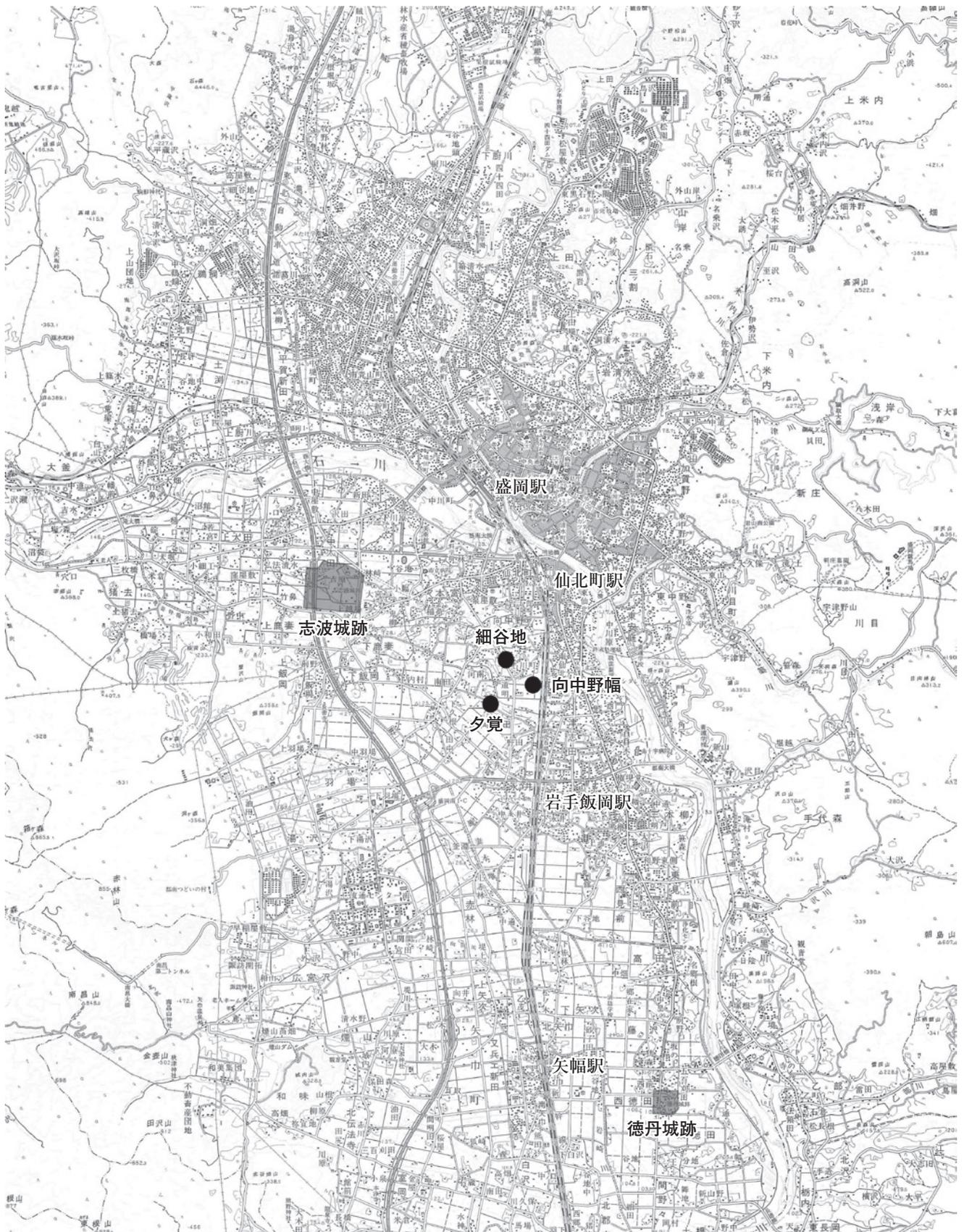
第1表	細谷地遺跡第38次調査掘立柱建物跡掘方規模等一覧表	23
第2表	細谷地遺跡第38次調査ピット計測表	23
第3表	細谷地遺跡第38次調査遺構土層観察表	24
第4表	細谷地遺跡第38次調査出土近世陶磁器観察表	25
第5表	細谷地遺跡第38次調査出土近現代ガラス瓶観察表(1)	25
第6表	細谷地遺跡第38次調査出土近現代ガラス瓶観察表(2)	26
第7表	細谷地遺跡第40次調査出土近現代ガラス瓶観察表(1)	27
第8表	細谷地遺跡第40次調査出土近現代ガラス瓶観察表(2)	28

図 目 次

第1図	細谷地遺跡南東部(道明地区)全体図	29
第2図	細谷地遺跡第37・38・40次調査区全体図	30
第3図	細谷地遺跡第38次調査Ⅰ区全体図	31
第4図	細谷地遺跡第38次調査Ⅱ区西半部全体図	32
第5図	細谷地遺跡第38次調査Ⅱ区東半部全体図	33
第6図	細谷地遺跡第38次調査Ⅲ区全体図	34
第7図	細谷地遺跡第38次調査Ⅰ区RD591陥し穴, RD617土坑	35
第8図	細谷地遺跡第38次調査Ⅰ区RG108・114～116溝跡, ピット	36
第9図	細谷地遺跡第38次調査Ⅱ区RG113溝跡	37
第10図	細谷地遺跡第38次調査Ⅱ区RG117・118溝跡	38
第11図	細谷地遺跡第38次調査Ⅲ区RA247竪穴建物跡	39
第12図	細谷地遺跡第38次調査Ⅲ区RB034・035掘立柱建物跡, RC010・011掘立柱列跡	40
第13図	細谷地遺跡第38次調査Ⅲ区RD618陥し穴, RD619土坑	41
第14図	細谷地遺跡第38次調査Ⅲ区RG113溝跡	42
第15図	細谷地遺跡第38次調査Ⅲ区ピット(1)	43
第16図	細谷地遺跡第38次調査Ⅲ区ピット(2)	44
第17図	細谷地遺跡第40次調査区全体図	45
第18図	細谷地遺跡第38次調査出土近世陶磁器	46

写真図版目次

第1図版	盛南開発地区航空写真	49
第2図版	細谷地遺跡第38次調査(1) 第38次調査Ⅰ区全景(北から), 第38次調査Ⅰ区全景(東から)	50
第3図版	細谷地遺跡第38次調査(2) 第38次調査Ⅱ区全景(南から), 第38次調査Ⅱ区全景(西から)	51
第4図版	細谷地遺跡第38次調査(3) 第38次調査Ⅲ区全景(北から), 第38次調査Ⅲ区全景(西から)	52
第5図版	細谷地遺跡第38次調査(4) RA247 堅穴建物跡(南から), RD591 陥し穴・土層断面, RD618 陥し穴・土層断面, RD617 土坑, RD619 土坑	53
第6図版	細谷地遺跡第38次調査(5) Ⅱ区 RG113 溝跡(西から), Ⅲ区 RG113 溝跡(北東から), RG108 溝跡(東から), RG114 溝跡(東から), RG115 溝跡(北から), RG116 溝跡(東から), RG117 溝跡(北東から), RG118 溝跡(北西から)	54
第7図版	細谷地遺跡第40次調査(1) 第40次調査区全景(南東から), 第40次調査区全景(北東から)	55
第8図版	細谷地遺跡第40次調査(2) 第40次調査区全景(北西から), 近現代廃棄土坑	56
第9図版	細谷地遺跡第38次調査出土近世陶磁器	57
第10図版	細谷地遺跡第38次調査出土近現代陶磁器(1)	58
第11図版	細谷地遺跡第38次調査出土近現代陶磁器(2)	59
第12図版	細谷地遺跡第38次調査出土近現代ガラス瓶(1)	60
第13図版	細谷地遺跡第38次調査出土近現代ガラス瓶(2)	61
第14図版	細谷地遺跡第38次調査出土近現代ガラス瓶(3)	62
第15図版	細谷地遺跡第38次調査出土近現代ガラス瓶(4)	63
第16図版	細谷地遺跡第38次調査出土近現代ガラス瓶(5), プラスチック製品, 玩具・文具等	64
第17図版	細谷地遺跡第40次調査出土近世陶磁器, 近現代陶磁器(1)	65
第18図版	細谷地遺跡第40次調査出土近現代陶磁器(2)	66
第19図版	細谷地遺跡第40次調査出土近現代陶磁器(3), 磁器製品	67
第20図版	細谷地遺跡第40次調査出土近現代ガラス瓶(1)	68
第21図版	細谷地遺跡第40次調査出土近現代ガラス瓶(2)	69
第22図版	細谷地遺跡第40次調査出土近現代ガラス瓶(3)	70
第23図版	細谷地遺跡第40次調査出土近現代ガラス瓶(4)	71
第24図版	細谷地遺跡第40次調査出土近現代ガラス瓶(5)	72
第25図版	細谷地遺跡第40次調査出土近現代ガラス瓶(6), ガラス製品	73
第26図版	「アサヒビール」ポスター(大日本麦酒株式会社, 中国向け)	74



〔この地図は、国土地理院発行の5万分の1地形図を縮小して使用したものである。〕

挿図1 遺跡位置図 (1 : 100,000)

第1章 経過

第1節 事業の経過

(1) 盛南開発

構想具体化の始まり 東北縦貫自動車道、東北新幹線といった国家プロジェクトが北東北にも進展した昭和40年代、当時広大な農地が広がっていた雫石川の南岸、東北本線仙北町駅の西側は、盛岡市の将来の都市発展方向と目されていた。昭和46年2月発表の「盛岡市市勢発展総合計画」第一次案において、雫石川を渡って太田・本宮地区を南北に縦貫する市内の中心軸線道路が「盛南新市街地を通る線」と表現され、また都市基盤の整備に「軸状都心の形成」を掲げて「盛南新市街地の中心部」が南の拠点とされた。盛南開発構想が具体化した始まりである。総合計画は昭和47年4月に正式決定され、盛南開発予定区域は面積850haでスタートした。

協議会と地域公団 盛南開発の予備調査は、昭和52・53年度に当時の地域振興整備公団（以下「地域公団」と呼ぶ）により行われた。しかし、盛南地区の北東に隣接する仙北西地区の土地区画整理事業と幹線道路の都市計画決定に対し住民が反発する事態となったことを受け、盛南開発では住民との対話によって計画づくりを行う手法に転換された。地元の意見を反映させる場として協議会が昭和55年1月に設立され、以後1年半にわたって盛南地区850haの開発手法が議論された。昭和56年9月、事業区域割がまとまり、盛南地区は①「都市開発区域」431ha、②「市街化区域」74ha、③「中央公園」28ha、④「ほ場整備区域」317haの4区分されることとなった。道明地区は「都市開発区域」に含まれ、新市街地エリアとされていた。その後、「都市開発区域」について新たな協議会が発足、地域公団が事業主体となって着手される方針が固まった。

事業採択までの経緯 地域公団は、昭和58・59年度に「盛南地区基本計画調査」を行い、区域面積約450ha・総事業費480億円の基本計画案を策定。大蔵省との折衝に進んだが、事業規模の見直しが要求されたため、地域公団は規模縮小により新規採択に持ち込もうとし、盛岡市・旧都南村との意見対立が膠着した。しかし、新規事業採択をめぐる他都市との競合や、「軸状都心」の要となる盛岡駅西口地区（旧国鉄跡地）開発との同調の必要性などから譲歩せざるをえない状況となり、昭和62年8月、盛南地区の「都市開発区域」450haについては、320haを地域公団が地方都市開発整備事業により、残る130haについては盛岡市と旧都南村が土地区画整理事業等により独自に整備することで決着。「盛岡南地区都市開発整備事業」（面積320ha、事業費650億円）が昭和63年度新規採択事業となった。しかし、これにより「都市開発区域」の南東隅に位置していた道明地区は、地域公団の事業区域外となることが決定した。

(2) 盛岡南新都市開発整備事業（盛岡南新都市土地区画整理事業）

事業認可 地域公団の事業採択を受け、岩手県・盛岡市・旧都南村による地域公団への事業申請が平成2年9月に行われた。地域公団による「事業実施基本計画」策定は、「盛岡南新都市整備計画委員会」において協議が進められ、平成3年12月に当時の建設大臣および国土庁長官から認可された。

事業経過 「盛岡南新都市開発整備事業」は、北東北の交流拠点都市の実現のため、現都心地区および盛岡駅西口地区に連担する職住近接の新しい市街地の形成を図るものとして現都心地区の南西部、雫石川の南に位置する約313.5haを整備するものとされた。そして平成6年5月、土地区画整理事業の施行が認可となり、

「盛岡南新都市土地区画整理事業」（面積 313.5ha）は平成 7 年 11 月に着工。期間変更を経て約 19 年間にわたる長期の工事の中、平成 14 年には公募による「ゆいとびあ盛南」が愛称となり、また国の行政改革により平成 16 年より施行者が独立行政法人都市再生機構（以下「都市機構」と呼ぶ）に移行したものの、平成 25 年 10 月の換地処分公告で事業は完了した。

（3）道明地区土地区画整理事業

事業経過 盛岡南新都市の事業区域から除外されることとなった道明地区であるが、街区や区画道路、都市計画道路などの基本計画は、盛岡南新都市と一体のものであった。道明地区は、都市基盤づくりのひとつである「盛岡南地区都市開発整備事業」の一環として盛岡市による土地区画整理事業が平成 16 年 2 月に認可され、当初施行面積 70.6ha で開始された。「岩手山の眺望と豊かな水辺のあるまち」をテーマとして、都市計画道路をはじめとする公共施設などを整備することにより、良好な住環境の形成を図ることを目的としている。工事は盛岡南新都市に隣接する箇所から順次着工されていったが、社会情勢の急激な変化を受け、平成 24 年度から事業の抜本的な見直しが行われ、平成 28 年 3 月の事業計画変更により施行面積は 21.7ha に縮小。除外区域は生活環境の改善と土地利用の促進を図るため、幹線道路の整備、主要生活道路の拡幅、河川改修及び上下水道整備を別事業として実施することとなった。宅地区域は民間開発事業に転換したが、平成 29 年度に道明地区中央部は（仮称）盛岡学校給食センター（新給食センター）が、道明地区東部の JR 東北本線沿いは産業等用地が盛岡市により整備されることが決定した。

【参考文献】

（独）都市再生機構 岩手・秋田都市開発事務所 2014 『盛南に夢馳せて－盛岡南新都市土地区画整理事業 事業誌－』

第 2 節 発掘調査の経過

盛岡南新都市区域の遺跡と調査 盛南地区の遺跡（埋蔵文化財包蔵地）のうち、盛岡南新都市の区域内については計 18 遺跡（当初は 17 遺跡）が所在し、総面積が約 60ha と広大であったことから、盛岡市教育委員会（以下「市教委」と呼ぶ）と（公財）岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター（以下「県埋文センター」と呼ぶ）が、平成 4 年度から試掘調査と本調査を担当した（平成 3 年 12 月 11 日付「覚書」「確認書」による）。基本的に、県埋文センターは盛岡市（宅地・区画道路分）と地域公団・都市機構（都市計画道路分）、国土交通省（国道 46 号線盛岡西バイパス）からの委託事業として本調査を実施。市教委は本調査範囲確定及び遺構密度確認のための試掘調査と、建物移転等により県埋文センターが対応できない箇所等の本調査を市教委予算事業（国土交通省交付金等）として、また一部の都市計画道路の本調査を地域公団・都市機構からの委託事業として実施した。

道明地区の遺跡と調査 一方、道明地区の当初事業計画では、盛岡南新都市の区域より続く細谷地遺跡・夕覚遺跡と、中央部に位置する向中野幅遺跡の計 3 遺跡が所在していたことから（挿図 1・2）、計画策定段階より市教委と都市整備部で協議を進め、発掘調査（報告書刊行含む）はすべて都市整備部予算事業（国土交通省交付金等）で行うこととされた。発掘調査は、盛岡南新都市と並行して平成 20 年度の夕覚遺跡から始まり、平成 23 年度からは細谷地遺跡の本調査を開始。夕覚遺跡の事業区域の野外調査は平成 24 年度で

完了、細谷地遺跡の野外調査は平成30年度で完了している。本書で報告の対象としている細谷地遺跡の平成30・令和元年度の調査成果の概要は、挿表1のとおりである。なお、計画変更により向中野幅遺跡は土地区画整理事業区域より除外となったものの、(仮称)盛岡学校給食センター(新給食センター)建設事業及び産業等用地整備事業に伴い、平成29・30年度に発掘調査が実施されている(別途報告書刊行)。

道明地区の資料整理と報告書刊行 土地区画整理事業関連の出土遺物や遺構図面等の資料整理は、野外調査開始当初より、埋蔵文化財センター機能を持つ「盛岡市遺跡の学び館」で計画的に進められた。発掘調査報告書の編集・刊行は、数年度をまとめて分冊として報告する方針としており、本書は道明地区土地区画整理事業関連の4分冊目(盛南地区遺跡群発掘調査報告書の13冊目)の報告書である。

挿表1 盛南地区遺跡群発掘調査一覧表〔細谷地遺跡、平成30・令和元年度〕

遺跡名	略号	回数	年度	調査方法	所在地	面積(m ²)	調査期間	遺構・遺物	調査原因	調査主体	報告書
細谷地	OHY	38	H30	本調査	向中野字細谷地 21-1 外	4,451	2018.7.2～ 2018.8.23 2018.10.1～ 2018.11.30	縄文時代陥し穴 2、古代竪穴建物跡 1・溝跡 1、古代以降土坑 2・溝跡 6、近世掘立柱建物跡 2・掘立柱列跡 2、ビット、近現代廃棄土坑 7	土地区画整理(道明地区)	市教委	本書
		39	R1	試掘調査	向中野 7丁目 13-4	53	2019.7.3	なし	宅地造成(盛岡南新都市区域)土地区画整理(道明地区)	市教委	本書
		40	R1	本調査	向中野字細谷地 24-4 外	595	2019.10.1～ 2019.10.24	近現代廃棄土坑 16	土地区画整理(道明地区)	市教委	本書

第3節 体制

〔事業者〕 盛岡市(都市整備部盛岡南整備課)

〔調査主体〕 盛岡市教育委員会

〔事務局〕 盛岡市教育委員会事務局歴史文化課

〔調査〕 盛岡市遺跡の学び館

担当者 細谷地遺跡第38次調査(平成30年度) 鈴木俊輝・今野公顕

第39次調査(令和元年度) 今野公顕・津嶋知弘

第40次調査(令和元年度) 鈴木俊輝・今野公顕

盛岡市教育委員会文化財保護関係職員(令和2年度)

教育長 千葉 仁一
教育部長 豊岡 勝敏
教育次長 大澤 浩

歴史文化課(文化財・史跡担当)
〔事務局(都南庁舎)〕

課長 福田 淳
課長補佐 畠山 俊明
文化財主査 三浦 陽一
文化財主査 神原 雄一郎
文化財主査 権頭 祐子
学芸主査 吉田 智春
主事 泉山 翔太
主事 石川 あかね
学芸員 廣瀬 拓磨
文化財調査員 戸澤 博子
文化財調査員 吉田 沙織
文化財調査員 篠原 理恵
文化財調査員 沼崎 由子
事務補助 齊 晃大
事務補助 苅敷山 真由美

歴史文化課(埋蔵文化財担当)
〔遺跡の学び館〕

館長(兼) 福田 淳
館長補佐 三浦 志麻
文化財副主幹 室野 秀文
文化財副主幹 菊地 幸裕
文化財主査 津嶋 知弘
文化財主査 今野 公顕
文化財主査 花井 正香
文化財主任(再) 似内 啓邦
主任(再) 杉浦 雄輝
文化財主事 鈴木 治輝
文化財調査員 今松 佑太
文化財調査員 佐々木 あゆみ
文化財調査員 鈴木 郁美
文化財調査員 伊藤 聡子
学芸調査員 千葉 貴子
学芸調査員 樋下 理沙
事務補助 立花 真奈



挿図2 道明地区土地区画整理事業全体図（変更後 1：600）

第2章 遺跡群の位置と環境

第1節 地理的環境

位置と立地 盛岡市は、岩手県の中央部に位置する。平成4年4月に南に隣接する都南村と、平成18年1月に北に隣接する玉山村と合併し、人口297,631人（平成27年国勢調査）、面積886.47km²の県庁所在地である。平成20年4月には、中核市へ移行している。地理的には、北上盆地の北端、岩手県から宮城県にかけて南流する北上川に、中津川・雫石川・築川といった支流が入り込む合流点にある。「盛南地区遺跡群」は、北上川の西岸とその支流である雫石川の南岸に広がる沖積段丘上に立地する。

地形と遺跡分布 雫石川は奥羽山脈から東流し、烏泊山と箱ヶ森に挟まれた北の浦付近（市内上太田）で急激に流路を狭められ、その狭窄部を抜け北上盆地に入り、北上川と合流する。雫石川の北岸には岩手山を供給源とする火山砕石流堆積物と火山灰層がのる台地が発達していることにより、狭窄部以東の南岸に流路転換が顕著に見られ、沖積段丘（砂礫段丘）が発達している。沖積段丘は、水成砂礫層を基底とし、その上に水成シルト層、そして表土が覆っている。基本層はおおむねこの3層に分類されるが、砂礫層の上面高をはじめ、それぞれの層相・層厚は地点によって大きく異なる。また、このシルト層は旧河道ばかりでなく、微高地などにも堆積している。このことは、この低位沖積段丘は、雫石川が周辺の山地から供給される砂礫やシルトによって堆積され、さらに河道の定まらない雫石川の下刻や堆積を繰り返されたことによるものと言える。雫石川の旧河道は幾筋も確認されており、連続する大きなものは4条、そのほかにも網目状に細かな旧河道も確認されており、複雑な河道変遷を示す。それらに画された微高地に、古代を中心とした遺跡が分布している。

遺跡群と所在地 この微高地上に立地する盛南地区遺跡群は、「盛岡南新都市開発整備事業（盛岡南新都市土地区画整理事業）」区域（面積313.5ha、平成25年事業完了）に所在した計17遺跡（大宮北遺跡・小幅遺跡・宮沢遺跡・鬼柳A遺跡・稲荷遺跡・本宮熊堂A遺跡・本宮熊堂B遺跡・野古A遺跡・飯岡沢田遺跡・飯岡才川遺跡・台太郎遺跡・向中野館遺跡・細谷地遺跡・矢盛遺跡・焼野遺跡・夕覚遺跡・南仙北遺跡）と、南東に隣接する「道明地区土地区画整理事業」の当初区域（面積70.6ha、平成15年事業開始、継続中）に所在する計3遺跡（うち2遺跡は盛岡南新都市から連続、細谷地遺跡・夕覚遺跡・向中野幅遺跡）の総称である。道明地区土地区画整理事業については、細谷地遺跡が盛岡市向中野字細谷地（盛岡南新都市では向中野5丁目・7丁目）、夕覚遺跡が盛岡市飯岡新田5地割（盛岡南新都市では北飯岡3丁目・4丁目）、向中野幅遺跡が盛岡市向中野字幅・畑返内に所在するが、この所在地名は事業完了後の住居表示整備により、今後変更になると見込まれる。

第2節 歴史的環境

遺跡群の時代 本遺跡群の立地する沖積段丘上では、縄文時代～古墳時代にかけての遺構遺物の発見は少なく、遺跡のほとんどは7世紀中葉以降の古代集落で、一部に中近世の居館・集落・墓域などがみられる。

先史 縄文時代の遺構遺物は、本宮熊堂A遺跡や台太郎遺跡で縄文晩期を中心とする竪穴建物や遺物包含

層が検出されている。また、詳細な時期は不明であるが、飯岡才川遺跡や細谷地遺跡、矢盛遺跡などでは縄文時代の陥し穴がまとまって確認されている。弥生時代の遺構遺物は、わずかに弥生前期頃の土器埋設遺構が台太郎遺跡にあるほか、弥生後期の土器片や北海道系の続縄文土器片が台太郎遺跡・細谷地遺跡で散発的に出土している。

古代 7世紀前葉以前の古墳文化の痕跡は不明であるが、7世紀中葉の遺構遺物は台太郎遺跡などで確認されており、これ以降、当該地域に集落が継続的に営まれる。奈良時代、8世紀中葉以降竪穴建物を主体とした集落が増加する。この時期の集落は、大型竪穴建物を中心としてその周囲に中～小型の竪穴建物が数棟ずつまとまりをもって分布する傾向があり、血縁的一族が共同体集落を構成したと考えられる。この時期は、「蝦夷（エミシ）」と呼ばれていた人々の集団と北進する律令政府とが激しく争ったことが文献に見られる。やがて当該地周辺の志波エミシは律令政府側に付き、胆沢エミシのアテルイは征夷大將軍の坂上田村麻呂に降伏。平安時代初頭の延暦21年（802）には北上盆地南部に胆沢城が、翌延暦22年（803）には本遺跡群の西方に「志波城」（下太田方八丁ほか）が造営される。

志波城は、東北地方のエミシ統治のために都の律令政府が造営した「古代城柵」である。『日本紀略』によると、坂上田村麻呂が「造志波城使」となり志波城は造営され、その規模は陸奥国最大級のものであったことが発掘調査により明らかとなっている。しかし北を流れる現在の雫石川（当時としては北上川の本流的流れ）の度重なる洪水の被害を受け、およそ10年で文室綿麻呂の建議により徳丹城（矢巾町）に移転したことが、『日本後紀』に見られる。その後、徳丹城は9世紀中葉までにはその機能を停止したようであり、本地域を含む北上盆地全体が、鎮守府となった胆沢城による一城統治の体制に移行したと考えられている。

律令政府の直接統治から在地エミシ系勢力を介した間接統治へと変化したであろう9世紀中葉から、本地域では竪穴建物を主体とした集落が増加していく。竪穴建物の規模の大小差は縮小するようになり、重複するものやカマドを作り替えるものが多く見られるようになる。また、向中野館遺跡で発見された低湿地の水辺祭祀遺物や、飯岡沢田遺跡・飯岡才川遺跡の円形周溝墓（末期古墳）群など、本地域内に集落以外の機能のエリアが見られるようになる。また、9世紀後葉から10世紀中葉にかけては、各地区に拠点集落が形成されるようになり、カマドを何度も作り替える大型竪穴建物が出現するようになる。飯岡才川遺跡では、微高地の南斜面に沿うように総柱の掘立柱建物が東西に並立し、高床倉庫群が存在したと考えられる。また大宮北遺跡や、志波城跡の北東に隣接する林崎遺跡で、官衙的な大型掘立柱建物を計画的に配置した集落も発見されており、これらは新興在地有力者の拠点と考えられる。

古代末～中世 11～12世紀にかけての様相ははっきりしないが、平安時代末となる12世紀末～13世紀初頭頃のものと考えられるかわらけが、盛岡南新都市の西隣にある大宮遺跡の大溝から多量に出土している。鎌倉時代の13世紀後半には、台太郎遺跡で不整五角形に堀を巡らす居館が営まれ、地域を支配した在地領主の存在が想定される。さらに同遺跡では、土坑墓群や宗教施設と考えられる遺構も確認されており、出土遺物から15世紀頃まで存続したようである。また向中野館遺跡や矢盛遺跡でも、堀跡と掘立柱建物群が検出されており、出土遺物等から戦国時代の16世紀代を中心とする居館（環濠集落）と考えられている。

近世 江戸時代になると雫石川はほぼ現在の流路の位置となり、東の北上川沿いには、盛岡藩の城下町に続く奥州道中（街道）や仙北組町が開かれ、本地域は水田地帯に農家が点在する農村風景となる。各遺跡からは曲屋などの掘立柱建物や井戸、南仙北遺跡では道路跡などの遺構が発見されており、この姿は盛南開発事業が施工される直前、昭和40年代までの本地域の様子と大きく違いが無いものと考えられる。

第3章 調査成果

第1節 細谷地遺跡の立地と概要

遺跡の位置と立地 細谷地遺跡は、延暦22年(803)に造営された古代城柵である志波城跡の南東約2.5kmに位置し、北に向中野館遺跡が隣接、北西に飯岡才川遺跡、南西に矢盛遺跡、南東に南仙北遺跡が囲んでいる。なお、志波城跡や周囲の遺跡と同様に低位沖積段丘上にあり、その南端縁辺部にあたり、遺跡の東側は北上川旧河道に面している。遺跡範囲は東西約600m、南北約280mをはかる。遺跡の西部・中央部が盛岡南新都市開発整備事業区域(都市再生機構施工)、南東部が都市再生整備計画事業区域(盛岡市施工、道明地区土地区画整理事業)となっている。

遺跡の概要 盛岡南新都市開発整備事業に伴い実施した発掘調査成果が報告済みであり、これまで県埋文センターと市教委の発掘調査により、向中野館遺跡から連続して旧河道に面する細谷地遺跡の中央北縁から南東部にかけて帯状に長く、8世紀前葉～10世紀の古代集落が確認されている。両遺跡を合わせ289棟の竪穴建物跡が精査されており、盛南地区で台太郎遺跡(700棟以上)に次ぐ大規模集落である。向中野館遺跡の中央を東西に横断する旧河道は、9世紀前葉から始まる水場祭祀遺構となっており、木簡などの木製品が多く出土している。この旧河道の北西に隣接する飯岡才川遺跡東集落には、9世紀後半の大型竪穴建物と計画的配置の総柱掘立柱建物が集中しており、多数の須恵器が出土している。

第2節 調査内容

(1) 第38次調査(平成30年度)

今次調査区は、遺跡の南東部に位置し、道明地区土地区画整理事業に伴う本調査として実施した(第1・2図)。調査区は、平成29年度実施の第37次調査I区東隣のI区、同II区南隣のII区、同II区東隣のIII区に分かれており、調査面積は4,451㎡。重機により表土を全面除去し、遺構検出を行った。

a. 遺構と遺物

検出された遺構は、I区が縄文時代の陥し穴1基(RD591)、古代以降の土坑1基(RD617)・溝跡4条(RG108・114～116)、近現代の廃棄土坑2基(RD913・914)、ピット、II区は古代の溝跡1条(RG113)、古代の溝跡2条(RG117・118)、III区は縄文時代の陥し穴1基(RD618)、古代の竪穴建物跡1棟(RA247)・溝跡1条(RG113)、古代以降の土坑1基(RD619)、近世の掘立柱建物跡2棟(RB034・035)・掘立柱列跡2基(RC010・011)、近現代の廃棄土坑5基(RD903・915～918)が検出された(第3～6図)。I～III区の遺構総数は、縄文時代の陥し穴2基(RD591・618)、古代の竪穴建物跡1棟(RA247)・溝跡1条(RG113)、古代以降の土坑2基(RD617・619)・溝跡6条(RG108・114～118)、近世の掘立柱建物跡2棟(RB034・035)・掘立柱列跡2基(RC010・011)、近現代の廃棄土坑7基(RD903・913～918)、ピットとなる。

・ 竪穴建物跡

RA247 (第11図)

位置 Ⅲ区北部中央 重複関係 なし 平面形 隅丸方形か(攪乱)

規模 南北3.3m, 東西約3.1m, 深さ0.1~0.12m

カマド方向 N22.0°W, 北カマド, 長い煙道(1.7m, 底面が床面からほぼ水平にのびる)

カマド 両袖残存, 焚口の焼土面あり 埋土 A1層, B1層, F1~3層, K1~3層, L層(第3表)

床面 構築土あり 柱穴 なし 出土遺物 土師器甕体部破片 時期 7・8世紀代か

・ 掘立柱建物跡

RB034 (第12図)

位置 Ⅲ区西部 重複関係 なし 構造 桁行6間・梁行2間

規模 桁行-北側柱筋総長15.45m, 柱間西から2.85+2.25+3.15+1.2+3.3+2.7m

南側柱筋総長15.9m, 柱間西から3.15+2.25+4.5+6.0m

梁行-西側柱筋総長5.55m, 柱間北から2.85+2.7m 東側柱筋柱間4.8m

建物方向 W10.0°N, 東西棟 掘方 13基(第1表) 時期 近世

RB035 (第12図)

位置 Ⅲ区西部 重複関係 なし 構造 桁行3間・梁行1間

規模 桁行-北側柱筋総長6.0m, 柱間西から2.4+1.8+1.8m

南側柱筋総長6.0m, 柱間西から2.1+2.4+1.5m

梁行-柱間2.4m

建物方向 W38.0°S, 北東-南西棟 掘方 8基(第1表) 時期 近世

・ 掘立柱列(板塀)跡

RC010 (第12図)

位置 Ⅲ区西部 重複関係 なし 構造 桁行2間 規模 総長7.8m, 柱間西から4.5+3.3m

桁行方向 W31.0°S, 北東-南西方向 掘方 3基(第1表) 時期 近世

RC011 (第12図)

位置 Ⅲ区西部 重複関係 なし 構造 桁行1間 規模 柱間1.8m

桁行方向 W30.0°S, 北東-南西方向 掘方 2基(第1表) 時期 近世

・ 陥し穴

RD591 (第7図)

位置 I区北西端 重複関係 なし 平面形 溝状

規模 長さ1.55m以上(北半部を第36次調査で精査済), 幅0.55m, 深さ0.74m

埋土 A1層, B1層, C1層, D1・2層, E1層(第3表)

出土遺物 なし 時期 縄文時代

RD618 (第13図)

位置 Ⅲ区中央部 **重複関係** なし **平面形** 溝状 **規模** 長さ3.2 m, 幅0.7～0.9 m, 深さ0.55 m
埋土 A1～3層, B1・2層(第3表) **出土遺物** なし **時期** 縄文時代

・土坑

RD617 (第7図)

位置 I区中央部 **重複関係** なし **平面形** 溝状
規模 長さ1.54 m, 幅0.32～0.38 m, 深さ0.22 m **埋土** A1層, B1層, C1層, D1層(第3表)
出土遺物 なし **時期** 古代以降

RD619 (第13図)

位置 Ⅲ区中央部 **重複関係** なし **平面形** 不整楕円形
規模 長軸1.0 m, 短軸0.8 m, 深さ0.3 m **埋土** A1～3層, B1層(第3表)
出土遺物 なし **時期** 古代以降

・溝跡

RG108 (第8図)

位置 I区南西部 **重複関係** なし
規模等 幅0.25～0.3 m, 延長5.5 m以上(西側が第37次調査), 深さ0.05 m, 西南西から東北東に走る。
埋土 A1層(第3表) **出土遺物** なし **時期** 古代以降

RG113W (Ⅱ区) (第9図)

位置 Ⅱ区南端部 **重複関係** なし
規模等 幅0.3～0.5 m, 延長32.9 m, 深さ0.1 m, 西南西から東北東に走る。
埋土 A1層, B1・2層(第3表) **出土遺物** なし **時期** 古代

RG113E (Ⅱ区) (第9図)

位置 Ⅱ区東端部 **重複関係** なし
規模等 幅0.6～0.7 m, 延長7.0 m以上(調査区外), 深さ0.1 m, 西南西から東北東に走る。
埋土 A1層, B1・2層(第3表) **出土遺物** なし **時期** 古代

RG113 (Ⅲ区) (第14図)

位置 Ⅲ区南端部 **重複関係** なし
規模等 幅0.4～0.6 m, 延長20.9 m, 深さ0.2～0.25 m, 南西から北東に走る。
埋土 A1・2層(第3表), A1層に灰白色粉状パミス **出土遺物** なし **時期** 古代

RG114 (第8図)

位置 I区中央部 **重複関係** なし

規模等 幅0.2～0.3 m, 延長2.3 m以上(攪乱), 深さ0.05 m, 東西に弧状に走る。

埋土 A1層(第3表) **出土遺物** なし **時期** 古代以降

RG115 (第8図)

位置 I区南東部 **重複関係** なし

規模等 幅0.2～0.3 m, 延長2.2 m以上(攪乱), 深さ0.05 m, 南北に弧状に走る。

埋土 A1層(第3表) **出土遺物** なし **時期** 古代以降

RG116 (第8図)

位置 I区南東部 **重複関係** なし

規模等 幅0.25 m, 延長1.9 m以上(攪乱), 深さ0.05 m, 東西に弧状に走る。

埋土 A1層(第3表) **出土遺物** なし **時期** 古代以降

RG117 (第10図)

位置 II区中央北部 **重複関係** なし

規模等 幅0.35～0.45 m, 延長2.7 m, 深さ0.2 m, 南南西から北北東に走る。

埋土 A1層, B1層(第3表) **出土遺物** なし **時期** 古代以降

RG118W・E (第10図)

位置 II区南西部 **重複関係** なし

規模等 幅0.3～0.6 m, 延長15.6 m, 深さ0.05～0.1 m, 北西から南東に途切れながら走る。

埋土 A1・2層(第3表) **出土遺物** なし **時期** 古代以降

・ピット

I区内に6口, III区内に27口, 計33口の古代以降のピットを検出した(第8・15・16図)。ピットの規模は第2表のとおりである。

・廃棄土坑

RD903 (第6図)

位置 III区南西端 **重複関係** なし **平面形** 不整楕円形

規模 長軸4.5 m, 短軸3.0 m(西半部を第37次調査で精査)

出土遺物 近現代ガラス瓶・陶磁器・ガラス製品

RD913 (第3図)

位置 I区北西部 **重複関係** なし **平面形** 不整楕円形 **規模** 長軸2.3 m, 短軸1.1 m

出土遺物 近世陶磁器, 近現代陶磁器

RD914 (第3図)

位置 I区中央部 **重複関係** なし **平面形** 不整楕円形 **規模** 長軸 2.7 m, 短軸 2.2 m
出土遺物 なし

RD915 (第6図)

位置 III区南西端 **重複関係** なし **平面形** 不整楕円形 **規模** 長軸 2.0 m, 短軸 1.9 m
出土遺物 近世陶磁器 (第18図5, 第4表), 近現代ガラス瓶・陶磁器・ガラス製品・陶磁器製品

RD916 (第6図)

位置 III区中央部 **重複関係** なし **平面形** 不整楕円形 **規模** 長軸 2.3 m, 短軸 2.0 m
出土遺物 近世陶磁器 (第18図1～4, 第4表), 近現代ガラス瓶・陶磁器・ガラス製品

RD917 (第6図)

位置 III区中央部 **重複関係** なし **平面形** 不整楕円形 **規模** 長軸 2.6 m, 短軸 2.0 m
出土遺物 なし

RD918 (第6図)

位置 III区東部中央 **重複関係** なし **平面形** 不整長方形 **規模** 長軸 4.0 m, 短軸 2.3 m
出土遺物 なし

・近世～近現代遺物

I・II区表土より, 近世陶磁器 (第18図6, 第4表), 近現代のガラス瓶, 陶磁器類, 石製品, ガラス製品, 文具・玩具等が出土した。

(2) 第40次調査（令和元年度）

今次調査区は、遺跡の南東部に位置し、道明地区土地区画整理事業に伴う本調査として実施した（第1・2図）。調査区は、平成29年度実施の第37次調査I区及び先述した平成30年度実施の第38次調査I区の南に隣接しており、調査面積は595㎡。重機により表土を全面除去し、遺構検出を行った。

a. 遺構と遺物

検出された遺構は、近現代の廃棄土坑16基（RD919～934）のみであった（第17図）。

・廃棄土坑

RD919（第17図）

位置 調査区北東部 重複関係 なし 平面形 不整楕円形 規模 長軸0.6 m, 短軸0.4 m
出土遺物 近現代陶磁器・ガラス瓶・煙管

RD920（第17図）

位置 調査区北東部 重複関係 なし 平面形 不整円形 規模 径0.7～0.8 m
出土遺物 近現代陶磁器

RD921（第17図）

位置 調査区北東部 重複関係 なし 平面形 不整楕円形 規模 長軸1.6 m, 短軸1.3 m
出土遺物 近現代陶磁器・ガラス瓶・磁器製品・おはじき・プラスチック蓋

RD922（第17図）

位置 調査区南東部 重複関係 なし 平面形 不整楕円形 規模 長軸2.4 m, 短軸1.8 m
出土遺物 近世陶磁器・古銭, 近現代陶磁器

RD923（第17図）

位置 調査区北西部 重複関係 なし 平面形 不整長方形 規模 長辺1.4 m, 短辺1.0 m
出土遺物 近現代陶磁器・ガラス瓶・磁器製品

RD924（第17図）

位置 調査区北西部 重複関係 なし 平面形 不整円形 規模 径0.4～0.5 m
出土遺物 近世陶磁器, 近現代陶磁器・ガラス瓶・磁器製品・七輪火皿

RD925（第17図）

位置 調査区北西部 重複関係 なし 平面形 不整円形 規模 径0.5～0.6 m
出土遺物 近世陶磁器, 近現代陶磁器・ガラス瓶・磁器製品・プラスチック蓋

RD926 (第17図)

位置 調査区中央北部 **重複関係** なし **平面形** 不整長楕円形 **規模** 長軸 4.2 m, 短軸 1.3 m
出土遺物 近世陶磁器, 近現代陶磁器・磁器製品・おはじき・ビー玉

RD927 (第17図)

位置 調査区中央南部 **重複関係** RD929 **平面形** 不整長楕円形
規模 長軸 4.0 m, 短軸 1.9 m **出土遺物** 近現代陶磁器

RD928 (第17図)

位置 調査区中央南部 **重複関係** なし **平面形** 不整楕円形 **規模** 長軸 4.5 m, 短軸 3.2 m
出土遺物 近現代陶磁器

RD929 (第17図)

位置 調査区中央南部 **重複関係** RD927 **平面形** 不整長楕円形
規模 長軸 3.0 m, 短軸 0.6 m以上 **出土遺物** 近世陶磁器, 近現代陶磁器

RD930 (第17図)

位置 調査区中央南部 **重複関係** なし **平面形** 不整形 **規模** 東西 4.0 m, 南北 3.0 m
出土遺物 近世陶磁器, 近現代陶磁器・磁器製品

RD931 (第17図)

位置 調査区北東部 **重複関係** なし **平面形** 不整楕円形 **規模** 長軸 0.8 m, 短軸 0.5 m
出土遺物 近世陶磁器, 近現代陶磁器・ガラス瓶・磁器製品

RD932 (第17図)

位置 調査区北東部 **重複関係** RD933 **平面形** 不整楕円形 **規模** 長軸 1.0 m, 短軸 0.8 m
出土遺物 近現代ガラス瓶・磁器製品・土人形・おはじき・プラスチック蓋・真空管

RD933 (第17図)

位置 調査区北東部 **重複関係** RD932 **平面形** 不整方形 **規模** 一辺 0.8 ~ 0.1 m
出土遺物 近現代ガラス瓶・磁器製品・プラスチック蓋

RD934 (第17図)

位置 調査区南東部 **重複関係** なし **平面形** 不整方形 **規模** 一辺 1.8 ~ 2.1 m
出土遺物 近世陶磁器, 近現代陶磁器・ガラス瓶・磁器製品・グラス・おはじき

・近現代遺物

遺構検出面より, 近現代のガラス瓶, 陶磁器が出土した。

第4章 総括

1. 調査のまとめ

盛岡市教育委員会で行った平成30・令和元年度の細谷地遺跡発掘調査により、第3章に記載した内容の成果を得ることができた。以下、調査内容のまとめを行い、総括とする。

細谷地遺跡第38・40次調査

平成30・令和元年度に行った第38・40次調査区全体で検出された遺構総量は、縄文時代の陥し穴2基(RD591・618)、古代の竪穴建物跡1棟(RA247)・溝跡1条(RG113)、古代以降の土坑2基(RD617・619)・溝跡6条(RG108・114～118)、近世の掘立柱建物跡2棟(RB034・035)・掘立柱列跡2基(RC010・011)、近現代の廃棄土坑23基(RD903・913～934)であった。

〔先史〕先史時代の遺構としては、縄文時代の陥し穴2基(RD591・618)が検出され、第38次調査Ⅰ区北西端が1基(RD591)、同Ⅲ区西部が1基(RD618)である。このうち第38次調査Ⅰ区北西端のRD591(北半部は第36次調査区)に近接して全長約150m・全幅約20mにわたって約30基が並ぶ大規模な帯状の陥し穴群(盛岡市ほか2018・2019・2020)が広がっている。

〔古代〕古代の遺構としては、第38次調査Ⅲ区より竪穴建物跡1棟(RA247)が検出された。第36次調査Ⅰ区のRA246の南東約20mに位置し、古代細谷地集落の最南端となる。遺構の3/4以上が攪乱されているが、カマド両袖と煙道が残存し、一辺3.1～3.3mの中型住居である。出土遺物が土師器甕破片のみで時期を特定できないが、煙道がのびるカマド方向がN22.0°Wと北カマドであること、また最も近い竪穴建物が7世紀代のRA246であり9世紀中葉以降の竪穴建物群とは遠く離れていることを考えると、7世紀または8世紀代の竪穴建物である可能性が高いと考えられる。

〔近世〕近世の遺構としては、第38次調査Ⅲ区より掘立柱建物跡2棟(RB034・035)・掘立柱列跡(RC010・011)が検出された。桁行総長15.45～15.9mと大型の東西棟であるRB034と、小型建物RB035及び板塀RC010・011とは建物方向が40～48°のずれがあり、両者には時期差があると考えられる。掘方からの出土遺物はないが、周囲の近現代廃棄土坑より18～19世紀の近世陶磁器が出土しており、掘立柱建物跡もこれに近い時期と考えられる。

第38次調査Ⅲ区から出土した近世陶磁器は(第8図1～5、第4表、写真第9図版)、濃緑色の寺町焼灰釉片口鉢・鉢、なまこ釉の寺町焼灰釉鉢・甕、肥前染付輪花皿、花古焼染付角皿などが見られる。年代的には、肥前染付と花古焼染付が18世紀後半～19世紀、陶器は19世紀と考えられる。第40次調査区から出土した近世陶磁器は(写真第17図版上段)、肥前染付大皿・皿・湯呑碗、花古焼八角皿、唐津茶碗、国産陶器鉄釉播鉢などの破片が見られ、18～19世紀の年代が考えられる。なお「寺町焼」とは、盛岡城下の花屋丁惣門付近にあったと伝承される宝永年間から明治初年頃まで操業された御用瓦窯「寺町窯」で焼かれたやきものである。青粘土「名須川土」の胎土が特徴的とされ、現在の本町通2丁目地内で行われた盛岡城遠曲輪跡第13次調査では、堀跡とともに粘土採掘坑が発見され、燻瓦・赤瓦・陶磁器・窯道具類が多数出土しており(盛岡市遺跡の学び館2014)、陶磁器の胎土に類似性が見られる。また「花古(鼻子)焼」とは、盛岡城下初の藩営磁器窯「山蔭焼」廃窯後の弘化3年(1847)2月に、その職人の貞助が盛岡に留まり築窯したもので、再度藩営とされたことが記録にある。窯跡は、城下の東部、旧新庄村鼻子(現在の東新庄2丁目)

の斜面に位置し、製品は染付磁器を主体とした山蔭焼に酷似している（盛岡市遺跡の学び館 2010，盛岡市教育委員会 2019）。

〔近現代〕 第 38 次調査 I 区から 2 基（RD913・914），同 III 区から 5 基（RD903・915～918），第 40 次調査区から 16 基（RD919～934）の計 23 基の近世陶磁器及び近現代陶磁器類・ガラス瓶・ガラス製品・金属製品・プラスチック製品等が多量に廃棄された土坑状の遺構が検出され，大多数の遺物を回収した。同様の遺構が 12 基検出された第 37 次調査より当該遺構を「廃棄土坑」と呼称している（盛岡市ほか 2020）。第 37 次調査と同様に，出土遺物の時期は前述の 18・19 世紀から明治，大正，昭和初期そして戦後の昭和 40・50 年代にまで及ぶと考えられる（写真第 10～25 図版，第 5～8 表）。本報告でも遺物の種類が多岐にわたっており，また第 37 次調査報文では紙幅の都合により写真・拓本・観察表の提示までとなっていたことから，次項にて第 37・38・40 次調査出土の近現代遺物についてまとめて概観することとする。

2. 細谷地遺跡出土の近現代遺物

①陶磁器類

〔器種〕

廃棄土坑より出土した近現代陶磁器の器種をみると，飯茶碗（子ども用含む），飯茶碗蓋，碗，鉢，皿，湯呑，急須，急須蓋，猪口，盃，爛徳利，通徳利，洋皿，ティーカップ・ソーサーなどがある。このうち，飯茶碗と皿の個体数が圧倒的に多く，同じ装飾で組みとなっている物が多数ある。和食器がほとんどである中で，洋食器も少数ながら出土している。日用食器以外では，汽車土瓶，駅弁醤油皿，磁器人形，ミニチュア播鉢，絵具皿，ボタン，植木鉢，餌皿，仏具などが出土している。

〔装飾技法〕

近代以降の陶磁器における装飾技法の特徴には，合成釉薬の導入と多様な印刷技術の展開という二つの柱がある（長佐古真也 2007）。廃棄土坑出土陶磁器の染付には発色の鮮やかな酸化コバルトが使用され，手描き染付のほか型紙刷，銅版刷，吹き絵，ゴム印判，シルクスクリーンといった印刷技法，多色の上絵技法がみられる。明治期に多用される精緻な文様の型紙刷・銅版刷の個体数は多くないが，飯茶碗に比べ皿では銅版刷が多いようである。子ども用の飯茶碗に昔話や動植物文様のほか，軍国調文様（軍旗，自動車，スローガンなど）がみられるのは，戦時下の世相を反映している。また，商店のノベルティと考えられる「吉三商店」「内田米穀店」「中喜商店」「竹原茶店」「衣料品はまや」といった店名が入った飯茶碗，皿，湯呑のほか，商品のノベルティである「岩手川」「月の輪」「観武」といった地元の日本酒銘柄がデザインされた猪口，盃がある。また，機械栓の通徳利には「細重商店」（盛岡市鉈屋町に「細重酒店」として現存）の名が大きく手描きされている。

〔記念盃・軍盃〕

式典などで配られた記念品として「昭和 7 年 10 月 雫石川改修起工式」（37 次 RD902），「昭和 26 年 8 月 20 日 本宮小中学校校庭拡張工事竣工」（37 次 RD904），「下閉伊郡物産共進会」（38 次 RD915）と書かれた盃がみられる。特に 40 次 RD934 から出土した盃には「原総理大臣閣下歓迎会 大正九年八月廿九日」の金文字があり，地方新聞である岩手日報の当時の記事に，第 19 代内閣総理大臣原敬が在任中の大正 9 年（1920）8 月 29 日に盛岡へ帰郷した際，官民合同の歓迎会が催され総勢 800 名ほどが参加したとあることから，この時に配られた記念盃と考えられる（原敬は翌年に東京駅で凶弾に倒れている）。また，盃に軍旗が描かれ

たもの（37次 RD912, 38次 RD903）や、「西比利亜」（シベリア）の文字があるもの（37次 RD901）、高台裏に名前があるもの（40次 RD931）は、戦前における徴兵の除隊記念や連隊の凱旋記念などで配られた軍盃である。

〔統制陶器〕

陶磁器の高台裏や底部に「裏印番号」という地名を表す漢字一文字と数字を組み合わせたものが、ゴム印または型打ちによって付されているものがみられる。これは戦時下に生産統制を目的とした生産者表示記号であり、昭和16年（1941）から終戦の昭和20年（1945）に限られるという。出土資料にみられる漢字は「岐」（岐阜県東濃地区、美濃焼）のみであるが、磁器飯茶碗・碗・湯呑だけでなく、陶器鍋（37次 RD903）、磁器インク瓶（37次 RD903）、磁器化粧クリーム瓶（38次 RD916）にまで付されており、戦時下で貴重であった金属やガラスの代用品として陶磁器が広く使われていたことを知ることができる。

②ガラス瓶

遺跡から出土するガラス瓶を考古遺物として調査・分析する意義や手法については、『ガラス瓶の考古学』（桜井2006, 2019増補）を参考とし、その分類も基本的に準拠している。個々のガラス瓶の詳細や年代は観察表のとおりであるが、特徴的な資料について以下に記述する。

〔酒瓶〕

■**ビール瓶**：37次001, 40次051は大日本麦酒株式会社の褐色ビール瓶。大阪麦酒（アサヒ）、日本麦酒（エビス）、札幌麦酒（サッポロ）が明治39年（1906）合併、当時の市場占有率が約7割であった（端田2016）。大正9年（1920）にはオーエンス式自動製瓶機の特許権を持つ日本硝子工業を合併して製瓶の近代化を進め、大量生産が確立された（川島2013）。第一次世界大戦後の大正6年（1917）には中国青島の工場を買収、「青島啤酒（チンタオビール）」のほかアサヒビールやサッポロビールも製造し、アジア諸国に輸出された。参考資料の写真第26図版はその当時の中国向け「太陽啤酒（アサヒビール）」ポスター（昭和初期）であり、中国語と英語による会社名表記が見える。戦後の昭和24年（1949）に朝日麦酒（現アサヒビール）と日本麦酒（現サッポロビール）に分割された。盛岡市内出土の戦前のビール瓶としては、史跡志波城跡第107次調査出土の帝国麦酒「サクラビール」の緑色ガラス瓶（輸出用）がある（盛岡市教委2016）。一方、37次003～005, 40次052はアメリカ製ビール瓶。昭和20年（1945）8月に終戦を迎えると、戦勝国のアメリカ軍が日本の軍事占領のため進駐した。第二次世界大戦末期、アメリカ軍は戦線にビールを船で運ぶのに省スペースで軽量なワンウェイ（使い捨て）瓶を使用しており（Peter Schulzほか2019）、進駐軍がそれらを戦後日本に持ち込んだと考えられる。

■**ワイン瓶**：37次007は寿屋（現サントリー）「ボンパン」で、昭和10年（1935）発売のリンゴ発泡酒。サントリー創業者の鳥井信治郎は、当時青森県でリンゴが採れすぎて困っているとの報に、農村との共存共栄精神からこれを引き取り、製品化。「ウイスキーへの入門酒」というキャッチフレーズで市場受けが良かった商品だった（サントリー株式会社1999）。

■**ウイスキー瓶**：37次010, 40次058は大黒葡萄酒「オーシャンウイスキー」のポケット瓶。胴部が切り子風の葡萄模様となっている。「オーシャン」ブランドは昭和21年（1946）に発売され、昭和36年（1961）に社名をオーシャンとしたが、翌年買収により三楽オーシャンとなる。当時はサントリー、ニッカと並ぶ三大ウイスキーブランドであった。37次011はニッカウイスキーのポケット瓶。商品としては昭和31年（1956）に発売された新二級ウイスキー、通称「丸壘ニッキー」（寿屋「トリス」と同一価格としたニッカ初のヒッ

ト商品), またはその後継で昭和 37 年 (1962) 発売の「エキストラニッカ」と考えられる。40 次 058 は宝酒造「アイデアルウイスキー」のポケット瓶。「アイデアル」ブランドは昭和 4 年 (1929) に合併した大正製酒の商標を取得したもの。アルミ製小型カップを装着できるよう二段スクリュー栓となっている。戦前も含めた日本のウイスキー製品については、ウェブサイト「ジャパニーズウイスキーデータベース wiki」に詳しい。

〔清涼飲料瓶〕

■サイダー瓶：37 次 012 は金線飲料のサイダー瓶。「金線サイダー」は日本で初めて本格的に流通したサイダーであり、アメリカのウィリアム・ペインターが発明した王冠栓を明治 37 年 (1904) に日本で初めて採用した。金線飲料の設立は大正 4 年 (1915)、大正 14 年 (1925) には日本麦酒釀造と合併している。37 次 014, 015 は日本麦酒釀造のサイダー瓶。「三ツ矢サイダー」は、明治 21 年 (1888) 発売の天然炭酸水「三ツ矢平野水」が始まりであり、明治 40 年 (1907) に帝国釀造がこれにサイダーフレーバーエッセンスを加え「三ツ矢印平野シャンペンサイダー」を発売、人気となった。帝国釀造が加富登麦酒・日本製塩と合併し日本麦酒釀造となったのは大正 11 年 (1922)。その後、日本麦酒釀造は昭和 8 年 (1933) に大日本麦酒と合併している。37 次 016 は戦後に「三ツ矢」ブランドを継承した朝日麦酒のサイダー瓶で、昭和 27 年 (1952) に「全糖三ツ矢シャンペンサイダー」が発売された。37 次 013, 40 次 059 は大日本麦酒のサイダー瓶。明治 41 年 (1908)、デンマークのツボルグ社を見学した大日本麦酒社長の馬越恭平は、ビール会社がビールとともに清涼飲料水 (炭酸飲料) を製造できることを知り、帰国後の明治 42 年 (1909) に発売したのが清涼飲料「シトロン」で、大正 4 年 (1915) に「リボンシトロン」と改称。戦後「リボンシトロン」ブランドは日本麦酒 (現サッポロビール) が継承した。

■ラムネ瓶：ガラス玉栓のラムネ瓶はイギリスのハイラム・ゴットが発案したものだが、ラムネ瓶の国内製造が始まると日本でラムネが大流行した (イギリス本国ではその後ガラス玉栓は衰退)。40 次 062 はガラス玉が底まで落ちる“びん底ラムネ”。40 次 063 は「川原ラムネ」の陽刻があり、盛岡市にあった川原飲料工業 (クインシトロンを販売、詳細不明) の製品か。

■ジュース瓶：37 次 018 は昭和 9 年 (1934) 創業の大日本果汁 (現ニッカウキスキー)「ニッカ林檎汁」瓶。ウイスキーは製造から出荷まで数年かかるため、工場のある北海道余市周辺のリンゴを使った果汁 100%ジュースを製造・販売した。ウイスキー初出荷前の昭和 11 年 (1936) の新聞広告等から昭和 10 年代のガラス瓶と考えられ、第 37 次調査報文の観察表を訂正する。37 次 019 は同時期の寿屋 (現サントリー)「林檎汁コーリン」(濃縮果汁) の把手付き透明瓶。

■乳性飲料瓶：37 次 021 は濃縮乳性飲料「カルピス」で、新徳用瓶 (630ml) の発売は大正 14 年 (1925)。当時は天の川の「銀河の群星」をイメージした青地に白の水玉模様の“青包装カルピス”のデザインであった。昭和 7 年 (1932) には製造コストを抑えて単価を低くした家庭向けの普及品“赤包装カルピス” (赤地に白の水玉模様) が発売された。40 次 60 は「ヤクルト」のガラス瓶。ヤクルト瓶は裏印 (底面の陽刻) から製造日や製瓶元を知ることができ (神原 2011)、昭和 37 年 5 月製瓶であることがわかる。ちなみに現在のよようなプラスチック容器となるのは昭和 44 年 (1969)。37 次 020 は三河カーラ「クレフカーラ 60」。会社が愛知県蒲郡市にあった以外は詳細不明、ヤクルト類似品か。

■みかん水瓶・ニッキ水瓶：37 次 022, 38 次 002・003 はニッキ水瓶。ニッキ水とは、「肉桂」という木の樹皮を乾燥した香辛料で風味をつけた飲料水で、主に駄菓子屋で子ども向けに販売されていた。ボトルネックが細長く、少しずつ飲めるようになっていた。また、40 次 061 はみかん水瓶の下半部。みかん水とは、

みかんの皮から絞った香油で風味をつけた無果汁の飲料水。駄菓子屋・雑貨店のほか、祭りの露店などでも売られていた。ニッキ水瓶よりガラスが厚手。ボトルネックが際立って長く、冷水のバケツにつけても口から水が入らず、取り出しやすいように進化したと言われている（平成ボトルクラブ監修2017）。

〔乳製品瓶〕

■牛乳瓶：37次023～026、38次004は、昭和初期～20年代の細口の牛乳瓶で、断面四角形の瓶もあった。特に026は「守山牛乳」と陽刻があり、昭和初期に「守山珈琲牛乳」が大ヒットした神奈川県守山乳業の牛乳瓶。守山珈琲牛乳・均質牛乳・ビタミン牛乳は鉄道牛乳シリーズといわれ、戦前の全国の鉄道売店は守山の独壇場だった。37次027は「岩手牛乳」と陽刻のある広口の牛乳瓶。盛岡では明治6年（1873）頃から牛乳店が営業していたようであるが、昭和12年（1937）に同業者17社が団結、「岩手牛乳販売購買利用組合」を結成、近代的な共同工場をつくり、「岩手牛乳」が誕生、戦後は株式会社となり現在も操業している。37次028～037、38次006・007、40次066～068（岩手牛乳、雪印牛乳、森永牛乳、小岩井牛乳、岩中酪牛乳、江刈酪農）は昭和30～50年代の銘柄印刷（ACL：Applied Ceramic Labelの略、セラミックカラーインクによるシルクスクリーン印刷）瓶。全国の乳業メーカーとブランド、牛乳瓶の詳細についてはウェブサイト「漂流乳業」に詳しい。

〔調味料瓶〕

■うま味調味料瓶：37次045～048、38次009～011はアミノ酸の一種であるグルタミン酸を商品化した「味の素」のガラス瓶。38次009は明治42年（1909）発売の最初期瓶、37次045は昭和2年（1927）発売の6g入り10銭瓶、37次45、38次010は昭和3年（1928）発売の15g小瓶。ここまでは栓を開け中身を匙に出して使用していた。37次47・48、38次011は戦後発売された振り出し瓶（赤文字ACL瓶）で、これによりキャップを外すだけで簡単に料理に振りかけられるようになり、普及した。

〔食品瓶〕

■金平糖瓶：37次054～056は、大正末期から昭和初期にかけて子ども達に大人気だった「菓子入り玩具瓶」。金平糖が入ったガラス瓶のことで、名前のおり金平糖を食べ終わったあとは、玩具（おもちゃ）として遊べるデザインとなっていた（ただし金平糖は当時的高级菓子）。054は男児向けの鉄砲形、055・056は女児向けの香水瓶形・水筒形であるが、そのほか飛行機や自動車、楽器などさまざまな形があった（平成ボトルクラブ監修2017）。

〔薬瓶〕

■医療用薬瓶：病院での処方薬の容器で、無色透明、薄手で軽いのが特徴。胴部には目盛線があり、病院名の陽刻またはラベルを貼る区画が見られる。37次060・061の「購買利用組合盛岡病院」は現在の岩手県立中央病院、38次015の「岩手病院」は現在の岩手医科大学附属病院の戦前の名称である。

■一般用薬瓶：市販薬の容器で、多種多様な色と形があった。37次062は三共製薬「アドレナリン」（副腎皮質ホルモン剤）、37次063はカトウ製薬「ハウト液」（皮膚薬）、37次064、40次075はクミアイ「オーカン」（皮膚薬）、38次017は大幸薬品「中島正露丸」（鎮痛薬）、40次074は三共製薬「オキシフル」（消毒薬）、40次076は三亜薬品工業「ユモール」（胃腸薬）。

■目薬瓶：37次065・066、38次018は「精皓水」と陽刻のある明治～大正期と考えられる目薬瓶。明治4年（1871）発売の西洋式目薬である岸田吟香薬房「精鑄水」の類似品か。当時は毛筆やスポイトで薬液を滴下していた。37次067・068、38次019は昭和初期の滴下式両口点眼瓶（瓶とスポイトが一体化）。目薬瓶の上部にゴム部品をはめ、それを押すと薬液が出る設計であった。37次069は戦後の昭和30年代の目薬

瓶で栓にプラスチックが使用されている（昭和30年代末から完全プラスチック製が普及）。目薬の変遷についてはウェブサイト「一般社団法人北多摩薬剤師会／薬と歴史シリーズ」に詳しい。

■**栄養保健剤瓶**：37次070は藤澤薬品工業「ブルトーゼ」（補血強壯剤），071は田辺元三郎商店「ハリバ」（肝油剤）。戦時下で悪化する食料事情で栄養不良にあっても勤労報国の時代を生きねばならなかった庶民の栄養剤であったことが、当時の新聞広告からわかる。戦時下の新聞広告についてはウェブサイト「東京湾要塞 三浦半島・房総半島戦争遺跡探訪／軍事文物」に詳しい。

〔化粧瓶〕

■**化粧水瓶**：平尾賛平商店「レートフード」（38次021），藤沢製薬工業「ユキワリミン」（37次073），資生堂「ゾートス化粧品」（37次077），関西有機化学工業「モナ葉緑素アストリンゼント」（37次084），伊藤胡蝶園「パピリオ化粧品」（37次087），「ピカソ葉緑素乳液」（38次022，ラベル残存）のほか，資生堂，ウテナ，ポーラ，カネボウ，ジュジュ，ピアス，コーセーの陽刻やACLがみられる。

■**椿油瓶**：肩が張る特徴的な瓶形状であり，「大島椿」，「本島椿」が多く，「ビスター椿油」（37次092）はラベルが一部残存している。

■**整髪料瓶**：加美乃素（37次096），ミスダリヤ「ヘアトニック」（37次097，ラベル残存），黒ばら本舗「ネオポアン」（37次098），うた椿（37次100・101），昇英堂「ゴコー黒椿」（37次102）がみられる。

■**化粧クリーム瓶**：白色不透明または乳白色半透明な瓶色が特徴。平尾賛平商店「レートクレーム」（37次103・104，38次027，40次080），「ウテナバニシングクリーム」（37次107，ラベル残存），「薬用クラブ美身クリーム」（38次060，プラスチック蓋残存）のほか，資生堂，花王，ウテナ，ジュジュ，ピカソ，カネボウ，ボンジー，ミツワ石鹸の陽刻がみられる。

■**ポマード瓶**：白色不透明または乳白色半透明な瓶色のほか，透明瓶等もあるのが特徴。「柳屋ポマード」（37次112・113，ラベル残存），「メヌマポマード」（37次114），うた椿（40次084），中村三興堂「ヒメ椿ポマード」，ケンシ精香（40次086）がみられる。特徴的なのは38次030「千代田ポマード」で，黄緑色半透明の「ウランガラス」が使用されており，暗闇で紫外線ライト（ブラックライト）を当てると蛍光色に発光する。ウランガラスは1830年頃にチェコで生まれたとされ，日本でも大正から昭和初期までウランガラス製品を大量に製造していた。しかし第二次世界大戦中にウランが原子爆弾に使えることが分かると，アメリカで使用が禁止され，戦後はウランの値段が上がったことなどから，現在は海外の一部の国でしか製造されていない（平成ボトルクラブ監修2017）。

〔文具瓶〕

■**インク瓶**：篠崎インキ製造「ライトインキ」（37次116），「クミアイインク」（37次117），内山商会「メーゼンインキ」（37次119，ラベル残存），パイロット（37次120），大善工業「クリヤーインキ」（38次033）がみられる。

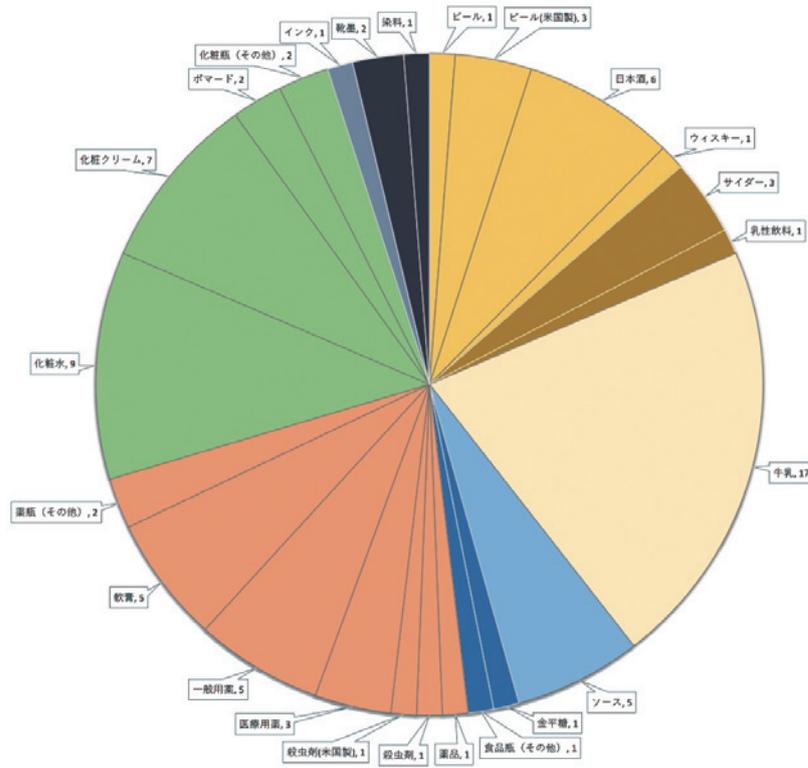
③廃棄土坑の分布とガラス瓶の組成

細谷地遺跡第37・38・40次で調査された近現代廃棄土坑は，中央部（第37次Ⅱ区・第38次Ⅲ区），北部（第37次Ⅲ区），西部（第38次Ⅲ区・40次調査区）にそれぞれ分布のまとまりがある。

報告書に写真掲載した資料を含め，台帳登録した全てのガラス瓶の個体数（概ね完形または完形まで復元でき分類が可能なもの）を集計したのがグラフ1（廃棄土坑のない南部の出土数を含む）である。化粧瓶と薬瓶が6割程度を占める一方，その他の酒瓶・清涼飲料瓶・乳製品瓶・調味料瓶・食品瓶は比較的少ない。

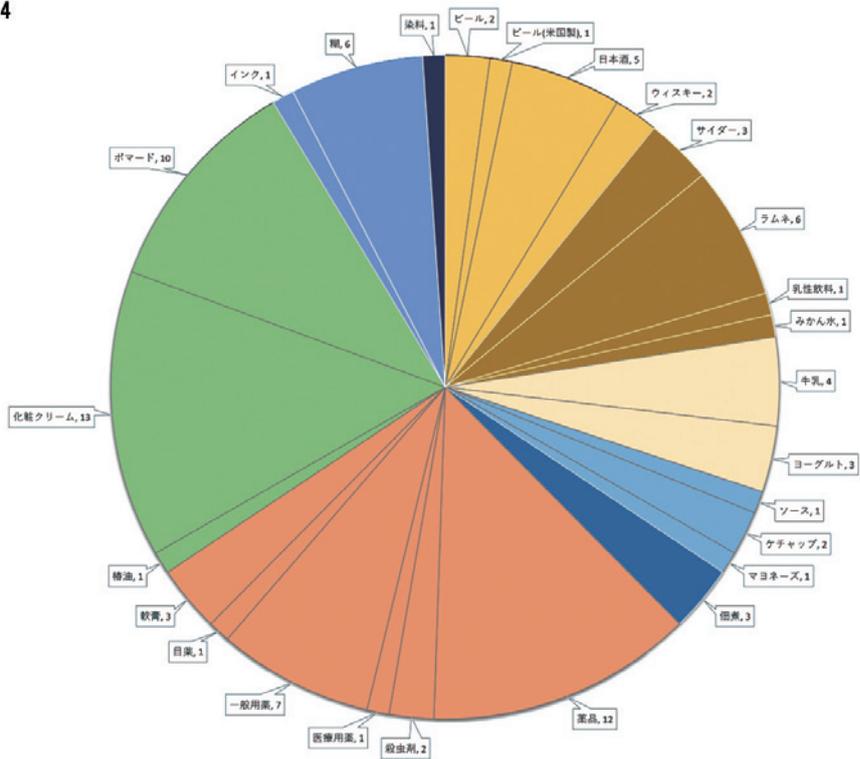
グラフ3

北部出土近現代ガラス瓶 (81点)



グラフ4

西部出土近現代ガラス瓶 (93点)



これは、都市近郊農村部である東京都日野市南広間地遺跡の大正期から戦後のガラス瓶組成（桜井 2006）に類似している。細谷地遺跡の所在する本宮地区（日本宮村：昭和 16 年（1941）盛岡市に編入）も地方都市である盛岡市（岩手県の県庁所在地）の中心部近郊の農村部であり、出土ガラス瓶の年代も明治期～昭和 50 年代（主体は昭和初期～昭和 30 年代）と近く、関東と東北における庶民の日常生活の類似性を指摘できる。また、中央部、北部、西部の各地区別組成がグラフ 2～4 である。周辺に広い田畑を所有していたという裕福な農家の居宅を中心とする中央部では廃棄個体数が多く、化粧瓶・薬瓶が 7 割程度を占めている。一方、そこから離れた北部、西部では、酒瓶・清涼飲料瓶・乳製品瓶といった飲料瓶の比率が 3～4 割と高いのが中央部とは対照的である。これらについては、廃棄個体数の違い（中央部 266 点、北部 81 点、西部 93 点）による誤差と見ることもできるが、ガラス瓶を廃棄した各世帯のライフスタイルや嗜好の違いを反映している可能性がある。

【引用・参考文献】

- 川島智生 2013 『アサヒビール所蔵資料でたどる近代日本のビール醸造史と産業遺産』淡交社
- 神原雄一郎 2011 『盛岡の地中から発見されたガラス瓶 明治から昭和にかけてのガラス瓶』盛岡市遺跡の学び館
- 麒麟麦酒株式会社 1967 『麒麟麦酒株式会社五十年史』
- キリンビール編 1984 『ビールと日本人 明治・大正・昭和ビール普及史』三省堂
- キリンビール株式会社 2017 『図説 ビール』河出書房新社
- 桜井準也 2004 『モノが語る日本の近現代生活－近現代考古学のすすめ－』慶應義塾大学教養研究センター選書
- 桜井準也 2006 『ガラス瓶の考古学』六一書房（2019 増補）
- サントリー株式会社 1999 『日々新たに サントリー百年誌』
- 長佐古真也 2007 「続・お茶碗考－近代・現代の中形碗に飯碗を探る－」『考古学が語る日本の近現代』同成社
- 大日本麦酒株式会社 1936 『大日本麦酒株式会社三十年史』
- 端田晶 2016 『おはっとうまい～日本のビール面白ヒストリー 大日本麦酒の誕生』雷鳥社
- 平成ボトルクラブ監修 2017 『日本のレトロびん』グラフィック社
- 盛岡市遺跡の学び館 2010 『第 9 回企画展「もりおかで焼かれた“やきもの”－セトモノから煉瓦まで－』図録』
- 盛岡市遺跡の学び館 2014 『開館 10 周年特別展「もりおか発掘物語」図録』
- 盛岡市遺跡の学び館 2019 『令和元年度テーマ展「透きとおった記録－ガラスにみる明治・大正・昭和－」展示解説資料』
- 盛岡市教育委員会 2016 『志波城跡－平成 23・24・25 年度発掘調査報告書－』
- 盛岡市教育委員会 2019 『平成 28・29 年度盛岡市埋蔵文化財調査報告書 山蔭焼窯跡－市営上水道管敷設工事に伴う緊急発掘調査－』
- 盛岡市・盛岡市教育委員会 2018 『盛南地区遺跡群発掘調査報告書 X－道明地区土地区画整理事業関連遺跡平成 20～26 年度発掘調査－ 細谷地遺跡 夕覚遺跡』
- 盛岡市・盛岡市教育委員会 2019 『盛南地区遺跡群発掘調査報告書 XI－道明地区土地区画整理事業関連遺跡平成 27・28 年度発掘調査－ 細谷地遺跡』
- 盛岡市・盛岡市教育委員会 2020 『盛南地区遺跡群発掘調査報告書 XII－道明地区土地区画整理事業関連遺跡平成 29 年度発掘調査－ 細谷地遺跡』
- 山本孝造 1990 『びんの話』日本能率協会
- Peter Schulz, Bill Lockhart, Carol Serr, Bill Lindsey, and Beau Schriever
2019 “A History of Non-Returnable Beer Bottles”

第1表 細谷地遺跡第38次調査掘立柱建物跡掘方規模等一覧表

遺構	柱穴	径 (m)	深さ (m)	平面形	柱痕跡
RB034 掘立柱建物跡	掘方1	0.34	0.24	不整円形	あり
	掘方2	0.42	0.10	不整円形	×
	掘方3	0.38～0.48	0.32	不整楕円形	×
	掘方4	0.30～0.46	0.20	不整楕円形	あり
	掘方5	0.46	0.24	不整円形	あり
	掘方6	0.28	0.10	不整円形	×
	掘方7	0.45～0.58	0.26	不整楕円形	あり
	掘方8	0.30～0.38	0.12	不整楕円形	×
	掘方9	0.48～0.64	0.28	不整楕円形	あり
	掘方10	0.30	0.10	不整円形	あり
	掘方11	0.42	0.34	不整円形	あり
	掘方12	0.32	0.10	不整円形	あり
	掘方13	0.30～0.38	0.18	不整楕円形	×
RB035 掘立柱建物跡	掘方1	0.36	0.35	不整円形	×
	掘方2	0.35	0.2	不整円形	あり
	掘方3	0.50	0.15	不整円形	あり
	掘方4	0.34	0.25	不整円形	あり
	掘方5	0.30	0.10	不整円形	×
	掘方6	0.36	0.15	不整円形	×
	掘方7	0.40～0.50	0.22	不整楕円形	×
	掘方8	0.36	0.20	不整円形	あり
RC010 掘立柱列跡	掘方1	0.50	0.15	不整円形	×
	掘方2	0.45	0.25	不整円形	あり
	掘方3	0.40	0.15	不整円形	あり
RC011 掘立柱列跡	掘方1	0.54	0.12	不整円形	あり
	掘方2	0.40	0.14	不整円形	あり

第2表 細谷地遺跡第38次調査ピット計測表

No.	径 (m)	深さ (m)	No.	径 (m)	深さ (m)	No.	径 (m)	深さ (m)
1	0.36	0.15	12	0.56～0.94	0.21	23	0.32～0.44	0.25
2	0.26	0.16	13	0.22	0.06	24	0.40	0.20
3	0.34	0.14	14	0.26	0.12	25	0.48～0.65	0.28
4	0.32	0.15	15	0.32	0.18	26	0.36～0.48	0.30
5	0.30～0.40	0.12	16	0.30～0.40	0.23	27	0.50	0.20
6	0.23	0.14	17	0.42	0.42	28	0.30	0.18
7	0.46	0.15	18	0.32	0.12	29	0.60	0.48
8	0.52～0.76	0.28	19	0.34	0.18	30	0.46	0.24
9	0.45～0.66	0.25	20	0.55～0.78	0.16	31	0.36	0.10
10	0.25	0.06	21	0.50～0.75	0.28	32	0.22	0.10
11	0.50～0.86	0.95	22	0.50～0.64	0.25	33	0.40	0.22

第3表 細谷地遺跡第38次調査遺構土層観察表

遺構名	層名	主要土		含有土				硬軟	密度	その他
		土色 (JIS)	土性 (略号)	土色 (JIS)	土性 (略号)	状態	%			
RA247 竪穴建物跡	A1	10YR2/3 黒褐色	SiCL シルト質埴壤土	10YR4/4 褐色	SiCL シルト質埴壤土	粉～粒	5	中～硬	中～密	
	B1	10YR3/3 暗褐色	SiCL シルト質埴壤土	10YR4/4 褐色	SiCL シルト質埴壤土	粉～粒	30	中～硬	中～密	
	F1	10YR4/4 褐色	SiCL シルト質埴壤土	10YR3/3 暗褐色	SiCL シルト質埴壤土	粉～粒	30	中～硬	中～密	焼土粒 3% 混じる
				10YR2/1 黒色	SiCL シルト質埴壤土	粉	5			
	F2	10YR2/2 黒褐色	SiCL シルト質埴壤土	10YR4/4 褐色	SiCL シルト質埴壤土	粉～粒	30	中～硬	中～密	
				10YR3/3 暗褐色	SiCL シルト質埴壤土	粉	10			
	F3	10YR4/4 褐色	SiCL シルト質埴壤土	10YR3/3 暗褐色	SiCL シルト質埴壤土	粉～粒	15	-	-	
				10YR2/2 黒褐色	SiCL シルト質埴壤土	粉～粒	5			
	K1	-	-							カマド構築土
K2	-	-							カマド構築土	
K3	-	-							カマド構築土	
L1	-	-							床構築土	
遺構名	層名	主要土		含有土				硬軟	密度	その他
		土色 (JIS)	土性 (略号)	土色 (JIS)	土性 (略号)	状態	%			
RD591 陥し穴	A1	10YR2/1 黒色	SiCL シルト質埴壤土	10YR4/6 褐色	SiCL シルト質埴壤土	粉～小粒	1	中	中～密	
	B1	10YR2/2 黒褐色	SiCL シルト質埴壤土	10YR4/6 褐色	SiL シルト質埴壤土	粒～小塊	10	中	中	
	C1	10YR4/4 褐色	SiL シルト質埴壤土	10YR2/2 黒褐色	SiCL シルト質埴壤土	小粒～小塊	10	軟～中	粗～中	
	D1	10YR4/6 褐色	SiL シルト質埴壤土	10YR2/2 黒褐色	SiCL シルト質埴壤土	小粒	2	中	中	
	D2	10YR4/6 褐色	SiL シルト質埴壤土	10YR2/2 黒褐色	SiCL シルト質埴壤土	小粒	1	中	中	
	E1	10YR2/2 黒褐色	SiCL シルト質埴壤土	10YR4/6 褐色	SiL シルト質埴壤土	小粒	2	中	中	
RD618 陥し穴	A1	10YR2/2 黒褐色	SiL シルト質埴壤土	10YR3/3 暗褐色	SiL シルト質埴壤土	粉	30	中～硬	中～密	
				10YR4/4 褐色	SiL シルト質埴壤土	粉～粒	20			
	A2	10YR2/2 黒褐色	SiL シルト質埴壤土	10YR3/3 暗褐色	SiL シルト質埴壤土	粉	10	中～硬	中～密	
				10YR4/4 褐色	SiL シルト質埴壤土	粉～粒	30			
	A3	10YR2/3 黒褐色	SiL シルト質埴壤土	10YR3/3 暗褐色	SiL シルト質埴壤土	粉	30	中～硬	中～密	
	B1	10YR3/3 暗褐色	SiL シルト質埴壤土	10YR4/4 褐色	SiL シルト質埴壤土	粉～粒	10	中～硬	中～密	
				10YR4/4 褐色	SiL シルト質埴壤土	粒～塊	50			
B2	10YR3/3 暗褐色	SiL シルト質埴壤土	10YR2/2 黒褐色	SiL シルト質埴壤土	粉	5	中～硬	中～密		
B2	10YR3/3 暗褐色	SiL シルト質埴壤土	10YR4/4 褐色	SiL シルト質埴壤土	粒～塊	30	中～硬	中～密	底面に礫層	
遺構名	層名	主要土		含有土				硬軟	密度	その他
		土色 (JIS)	土性 (略号)	土色 (JIS)	土性 (略号)	状態	%			
RD617 土坑	A1	10YR2/1 黒色	SiCL シルト質埴壤土	10YR4/4 褐色	SiCL シルト質埴壤土	粉～小粒	1	中	中	
	B1	10YR2/3 黒褐色	SiCL シルト質埴壤土	10YR2/1 黒色	SiCL シルト質埴壤土	粉～小粒	10	中	中	
	C1	10YR2/1 黒色	SiCL シルト質埴壤土	10YR3/3 暗褐色	SiCL シルト質埴壤土	粉～小粒	2	中	中	
	D1	10YR3/4 暗褐色	SiL シルト質埴壤土	10YR2/1 黒色	SiCL シルト質埴壤土	粒	10	中	粗～中	礫φ 1-5cm 多く混じる
RD619 土坑	A1	10YR2/3 黒褐色	SiCL シルト質埴壤土	10YR4/4 褐色	SiCL シルト質埴壤土	粉	5	中～硬	中～密	
	A2	10YR2/3 黒褐色	SiCL シルト質埴壤土	10YR4/4 褐色	SiCL シルト質埴壤土	粉～粒	30	中～硬	中～密	
	A3	10YR2/2 黒褐色	SiCL シルト質埴壤土	10YR4/4 褐色	SiCL シルト質埴壤土	粉～粒	10	中～硬	中～密	
	B1	10YR4/4 褐色	SiL シルト質埴壤土	10YR2/3 黒褐色	SiCL シルト質埴壤土	粉～粒	30	中～硬	中～密	
遺構名	層名	主要土		含有土				硬軟	密度	その他
		土色 (JIS)	土性 (略号)	土色 (JIS)	土性 (略号)	状態	%			
RG108 溝跡	A1	10YR2/2 黒褐色	SiL シルト質埴壤土	10YR4/4 褐色	SiCL シルト質埴壤土	小粒	2	中	中～密	
RG113 溝跡Ⅱ区	A1	10YR1.7/1 黒色	SiCL シルト質埴壤土	10YR3/2 黒褐色	SiL シルト質埴壤土	小塊～塊	3	中	中	礫φ 1-3cm 少量混じる。酸化鉄混じる
	B1	10YR2/2 黒褐色	SiL シルト質埴壤土	10YR4/2 灰黄褐色	SiL シルト質埴壤土	小塊	10	中	中	礫φ 1-3cm 少量混じる。酸化鉄混じる
B2	10YR2/2 黒褐色	SiL シルト質埴壤土	10YR4/2 灰黄褐色	SiL シルト質埴壤土	小塊	5	中	中	酸化鉄混じる	
			10YR2/2 黒褐色	SiL シルト質埴壤土	小塊	5	中	中	酸化鉄混じる	
RG113 溝跡Ⅲ区	A1	10YR2/1 黒色	SiCL シルト質埴壤土	10YR2/3 黒褐色	SiCL シルト質埴壤土	-	5	中	中	十和田 A 火山灰
				灰白色	粉状バミス	塊	1			
A2	10YR2/1 黒色	SiCL シルト質埴壤土	10YR3/3 暗褐色	-	塊	30	中	中	礫φ 3-5cm 混じる	
RG114 溝跡	A1	10YR2/2 黒褐色	SiCL シルト質埴壤土	10YR4/4 褐色	SiL シルト質埴壤土	小粒～小塊	5	中	中	焼土粒微量、炭化物粒混じる
RG115 溝跡	A1	10YR2/1 黒色	SiCL シルト質埴壤土	10YR4/4 褐色	SiCL シルト質埴壤土	粉～塊	15	中	粗～中	
RG116 溝跡	A1	10YR2/1 黒色	SiCL シルト質埴壤土	10YR3/4 暗褐色	SiCL シルト質埴壤土	粉～小塊	10	中	中	焼土小粒、炭化物小粒微量混じる
RG117 溝跡	A1	10YR2/1 黒色	SiCL シルト質埴壤土	10YR3/2 黒褐色	SiCL シルト質埴壤土	粉～粒	2	軟～中	中	
	B1	10YR2/2 黒褐色	SiCL シルト質埴壤土	10YR3/3 暗褐色	SiCL シルト質埴壤土	小粒	8	軟～中	中	
RG118 溝跡	A1	10YR2/1 黒色	SiCL シルト質埴壤土	10YR1.7/1 黒色	SiCL シルト質埴壤土	-	-	中	中	炭化物粒、酸化鉄混じる
	A2	10YR2/1 黒色	SiCL シルト質埴壤土	10YR1.7/1 黒色	SiCL シルト質埴壤土	-	-	中	中	酸化鉄混じる。礫φ 1cm 混じる
				10YR4/3 ぶい黄褐色	SiL シルト質埴壤土	塊	15			

第6表 細谷地遺跡第38次調査出土近現代ガラス瓶観察表(2)

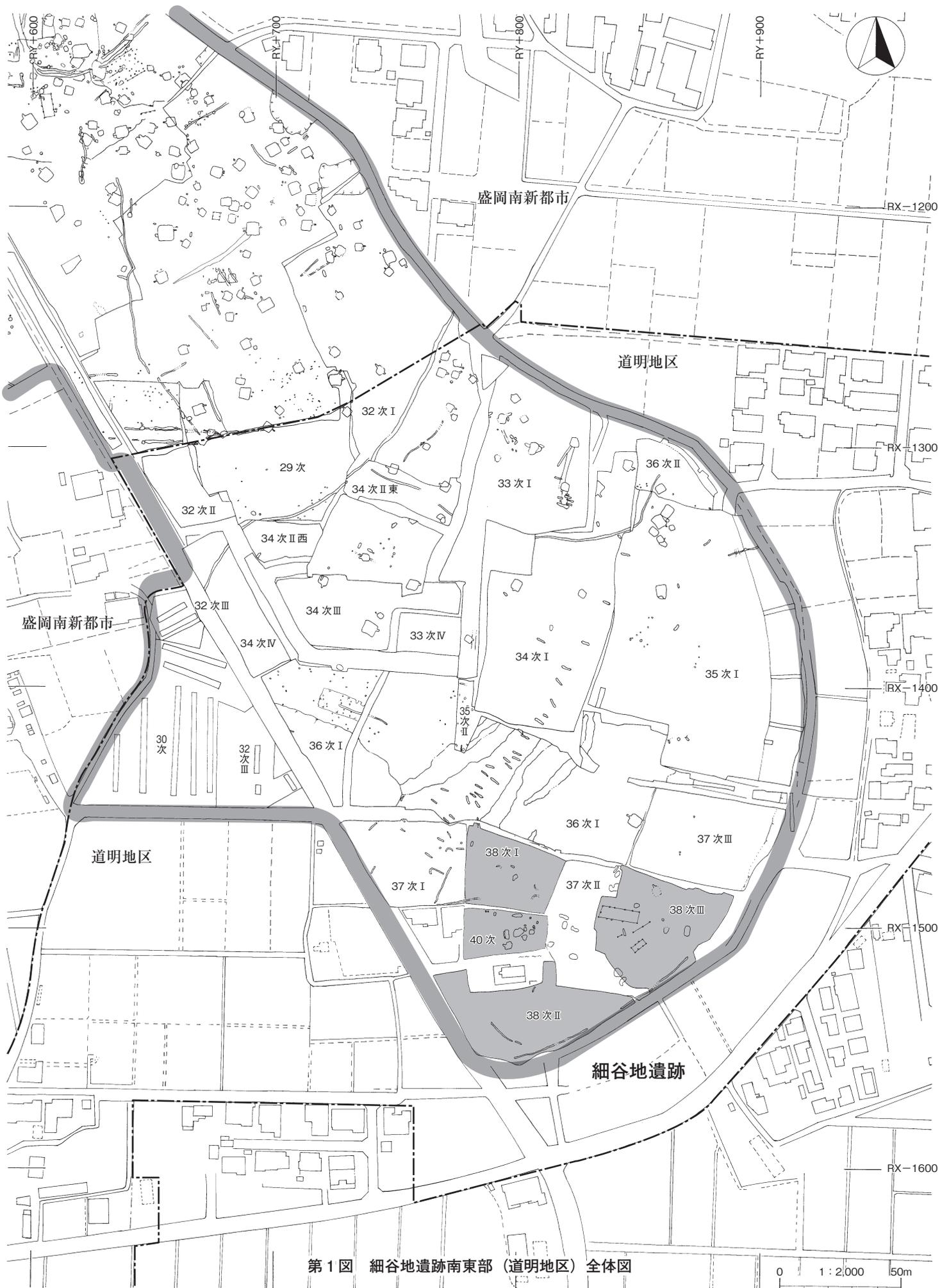
写真 図版	番号	遺構 名	台帳 No.	分類		寸法 (cm)				形態				栓種	色調・気泡等	陽刻, 印刷等	社名, 商品名, 製 瓶会社等	年代	
				用途	細分	全高	口径	肩幅	底面	口部	首部	肩部	胴部						底部
15	021	RD915	028	化粧瓶	化粧水瓶	11.2	2.0	49×30	43×28	細口	短首	いかり肩	断面楕円形	平底	コルク	無色透明, 気泡	陽刻「オートフード」 [LAITFOOD] 底「<愛-Sマ ーク>」	平尾資平商店 (1878-1954) 「オートフード」 (1915 発売)	大正～ 昭和初期
15	022	II区 表土等	013	化粧瓶	化粧水瓶	12.3	1.6	-×23	50×20	細口	短首	いかり 肩一部 欠損	断面長方形	平底	スクリュウ	無色透明, フロスト 加工	陽刻胸女性像・ラベル 枠, 底「PICASO」	ラベル「ピカソ薬緑素乳 液」ピカソ美化学研究所 (1935 創業)	昭和30年代か
15	023	RD916	051	化粧瓶	化粧水瓶	13.3	1.7	61×29	51×22	細口	短首	いかり 肩	断面楕長 八角形	平底	スクリュウ	無色透明	陽刻底「<花椿商 標>」	資生堂 (1872 創業, 商標 「花椿」1915)	昭和30年代か
15	024	RD916	052	化粧瓶	椿油瓶	9.9	0.8 (L6)	4.6	3.7	極細口	短首	なで肩	断面円形	平底	スクリュウ	無色透明	陽刻「本島椿」底「< マルGマーク>」	本島椿 (1910 創 業)	昭和20年代か
15	025	RD916	054	化粧瓶	椿油瓶	8.9	0.8 (L5)	5.2	4.3	極細口	長首	いかり肩	断面円形	平底	スクリュウ	無色透明	陽刻「大島椿」 大島椿製油所 (1927 創業)	昭和20年 代以降	
15	026	RD915	029	化粧瓶	化粧クリー ム瓶	6.2	4.2	5.7	4.2	広口	短首	いかり肩	断面円形	平底	スクリュウ	白色不透明	陽刻底「<ウテナ マーク>」	ウテナ (1927 創業)「ウ テナパニングクリーム」 (1927 発売)	昭和2年以降
15	027	RD916	056	化粧瓶	化粧クリー ム瓶	4.4	3.8	4.4	4.4	広口	短首	いかり肩	断面円形	平底	スクリュウ	白色不透明	陽刻胸彫刻風模 様・ラベル枠・底 「・・・」	平尾資平商店 (1878-1954) 「オートフード」 (1915 発売)	大正～ 昭和初期か
15	028	II区 表土等	016	化粧瓶	化粧クリー ム瓶	5.0	5.2	5.9	3.7	広口	短首	いかり肩	口広がり 円筒形, 断面円形	平底	スクリュウ	白色不透明	陽刻底 「POMGEE」	岡本信太郎商店 「ボンジー本舗」 1919 創業	大正～昭 和初期か
16	029	RD916	060	化粧瓶	化粧クリー ム瓶	4.3	3.9	4.8	3.1	広口	短首	いかり肩	立面楕円 形, 断面 円形	平底	スクリュウ	ピンク色半透明	陽刻底「<マルTマ ーク>」, プラスチック蓋 「CLUB」[PAT. No. 6558]	中山太陽堂 (1909 創業)「薬用 クラブ美身クリーム」 (1935, 現クラブヘルモントクリーム)	昭和10年 以降
16	030	RD916	061	化粧瓶	ボマード瓶	4.6	3.9	4.6	3.8	広口	短首	円筒形	断面八角形	高台付き	スクリュウ	黄緑色半透明 (ウ ランガラス)	陽刻底「千代田ボ マード」右読み	山岸商店「千代田ボ マード」 (1932)	昭和7～ 15年頃
16	031	RD915	032	化粧瓶	ボマード瓶	5.1	5.8	6.5	6.4	広口	短首	いかり肩	断面円形, 円筒形	平底	スクリュウ	白色不透明	陽刻胸縦縞模様・ ラベル枠, 陽刻底 「61」	不明	
写真 図版	番号	遺構 名	台帳 No.	分類		寸法 (cm)				形態				栓種	色調・気泡等	陽刻, 印刷等	社名, 商品名, 製 瓶会社等	年代	
				用途	細分	全高	口径	肩幅	底面	口部	首部	肩部	胴部						底部
16	032	RD915	033	文具瓶	インク瓶か	5.4	2.5	3.6	4.7	広口	短首	いかり肩	断面円形	平底	コルク	無色透明, 気泡	立面台形, 陽刻底 「<三角マーク>」	不明	
16	033	II区 表土等	019	文具瓶	インク瓶	6.3	3.7	54×45	48×40	広口	短首	いかり肩	断面長方形	平底	スクリュウ	無色透明, ゆがみ	陽刻「クリ ヤーインキ」	大善工業「クリ ヤーインキ」	昭和30年代か
写真 図版	番号	遺構 名	台帳 No.	分類		寸法 (cm)				形態				栓種	色調・気泡等	陽刻, 印刷等	社名, 商品名, 製 瓶会社等	年代	
				用途	細分	全高	口径	肩幅	底面	口部	首部	肩部	胴部						底部
16	034	II区 表土等	020	日常生活 瓶	染料瓶	4.5	2.0	2.5	2.4	細口	長首	いかり肩	断面円形	平底	コルク または 紙栓	無色透明, 気泡	陽刻「増井製」 底「<商標>」	増井商店食紅	昭和20年代

第7表 細谷地遺跡第40次調査出土近現代ガラス瓶観察表(1)

写真 図版	番号	遺構 名	台帳 No.	分類		寸法 (cm)				形態				栓種	色調・気泡等	陽刻, 印刷等	社名, 商品名, 製 瓶会社等	年代	
				用途	細分	全高	口径	肩幅	底面	口部	首部	肩部	胴部						底部
20	051	RD919	001	酒瓶	ビール瓶	28.5	2.6	7.9	6.7	細口	長首	いかり肩	断面円形	平底	王冠	褐色半透明	陽刻「DBマーク TRADE MARK」・肩下端「DANDPON BREWERY CO LTD」・底「DK 星マーク」	大日本麦酒 (1906-49)	昭和初期～24年
20	052	RD924	001	酒瓶	ビール瓶 (アメリカ製)	17.2	2.6	6.9	5.7	細口	短首	なで肩	断面円形	平底	王冠	褐色半透明	陽刻「NO DEPOSIT NO RETURN」・「NOT TO BE REFILLED」・底「<マーク>」	アメリカ進駐軍フンウェイビール, オーエンス・イリノイス社製	昭和20年代初頭
20	053	RD924	003	酒瓶	日本酒瓶	28.8	2.6	7.8	7.1	細口	長首	いかり肩	断面円形	平底	王冠	淡青色透明	陽刻「星マーク」・商標「TAKARA」・肩下「寶酒造株式会社 正味60cc」	宝酒造 (1905創業)	昭和30年代以降
20	054	RD924	002	酒瓶	日本酒瓶	23.3	2.6	6.5	5.4	細口	長首	いかり肩	断面円形	キック	王冠	無色透明	印刷「<商標>」・「シリュク」・「ショーチュー」・「甲標」	協和醸造工業 (1949設立, 2002アサヒ酒造と合併), 2006ニッカウキョーと合併	昭和30～40年代
21	055	RD924	004	酒瓶	日本酒瓶	21.2	2.6	6.8	4.9	細口	短首	なで肩	断面円形	平底	王冠	淡青色透明	印刷「清酒」	近三酒造店 (1970創業, 1973協和醸造と合併), 1998協和醸造	昭和45年以降
21	056	RD933	001	酒瓶	日本酒瓶	14.2	2.3	6.4	4.8	細口	短首	なで肩	断面円形	平底	王冠	無色透明	印刷「<商標>」	近三酒造店 (1970創業, 1973協和醸造と合併), 1998協和醸造	昭和30年代～45年
21	057	RD919	003	酒瓶	ウイスキー瓶	15.4	1.9	8.1×3.4	6.7×2.1	細口	短首	いかり肩	断面縦長四角形 (ボケット瓶)	二段スクリュー	無色透明	印刷「DAIKOKU」	宝酒造 (1925設立), 「アデア」 (1920) 大正製酒 (1929) 宝酒造 (吸収合併)	昭和30年代か	
21	058	RD925	002	酒瓶	ウイスキー瓶	15.3	2.3	8.1×3.6	6.4×3.0	細口	短首	いかり肩	断面楕円形 (ボケット瓶)	スクリュー	無色透明	印刷「DAIKOKU」	大黒酒造 (1888創業, 1984大黒酒造), 1961オーシャン (1980) マルシェン (1965) ショーシャン (1965)	昭和21～36年	
写真 図版	番号	遺構 名	台帳 No.	分類		寸法 (cm)				形態				栓種	色調・気泡等	陽刻, 印刷等	社名, 商品名, 製 瓶会社等	年代	
用途	細分	全高	口径	肩幅	底面	口部	首部	肩部	胴部	底部									
21	059	RD924	005	清涼飲料瓶	サイダー瓶	(21.7)	-	6.4	5.8	細口	長首	いかり肩	断面円形	平底	欠損	淡緑色透明	印刷「BNKマーク」・「大日本麦酒株式会社」	大日本麦酒「シトロ」 (1909発売, 1915リボンシトロ)	昭和初期～24年
21	060	RD932	001	清涼飲料瓶	乳性飲料瓶	7.1	3.1	3.5	3.1	広口	短首	なで肩	断面円形	平底	紙栓・掛け紙	無色透明	印刷「<商標>」	第一硝子製瓶	昭和37年5月製
21	061	RD921	001	清涼飲料瓶	みかん水瓶	(6.2)	-	-	3.1	欠損	欠損	弧形	断面円形	平底	欠損	無色透明	陽刻縦線	不明	大正～昭和初期
22	062	RD931	002	清涼飲料瓶	ラムネ瓶	17.5	2.3	4.7	3.3	細口	短首	なで肩	断面六角形「びん底ラムネ」	平底	ガラス玉	濃緑色半透明, 気泡	胴ラベル枠, 円形凹み4箇所	不明	大正～昭和初期か
22	063	RD924	007	清涼飲料瓶	ラムネ瓶	20.1	2.6	5.7	4.7	細口	短首	なで肩	断面六角形	平底	ガラス玉	青色半透明, 気泡	円形凹み4箇所, 陽刻「<商標>」	川原飲料工業 (盛岡市) か	昭和20年代以前か
22	064	RD924	008	清涼飲料瓶	ラムネ瓶	19.8	2.4	5.9	4.5	細口	短首	なで肩	断面六角形	平底	ガラス玉	淡緑色透明	円形凹み4箇所, 陽刻「<商標>」	不明	昭和20年代以前か
22	065	RD924	006	清涼飲料瓶	ラムネ瓶	20.1	2.6	5.6	4.1	細口	短首	なで肩	断面円形	平底	ガラス玉	青色半透明, 気泡	円形凹み4箇所, 陽刻「<商標>」	不明	昭和20年代以前か
写真 図版	番号	遺構 名	台帳 No.	分類		寸法 (cm)				形態				栓種	色調・気泡等	陽刻, 印刷等	社名, 商品名, 製 瓶会社等	年代	
用途	細分	全高	口径	肩幅	底面	口部	首部	肩部	胴部	底部									
22	066	検出面	003	乳製品瓶	牛乳瓶	14.0	4.4	5.6	4.6	広口	短首	なで肩	断面円形	平底	紙栓・掛け紙	無色透明	印刷「<商標>」	小岩井製瓶 (1938設立, 1976小岩井製瓶), 日本硝子製瓶	昭和30年代
22	067	検出面	002	乳製品瓶	牛乳瓶	14.0	4.4	5.6	4.8	広口	短首	なで肩	断面円形	平底	紙栓・掛け紙	無色透明	印刷「<商標>」	小岩井製瓶 (1938設立, 1976小岩井製瓶), 日本硝子製瓶	昭和30年代
22	068	RD918	001	乳製品瓶	牛乳瓶	13.9	4.5	5.6	4.5	広口	短首	なで肩	断面円形	平底	紙栓・掛け紙	無色透明	印刷「<商標>」	江刈酪農 (葛巻町, 明治乳業系列), 第一硝子製瓶	昭和30年代か
23	069	検出面	005	乳製品瓶	ヨーグルト瓶	7.0	5.1	6.1	4.7	広口	短首	なで肩	断面円形	平底	紙栓・掛け紙	無色透明	印刷「<商標>」	岩手牛乳 (1937創業)	昭和30年代
23	070	検出面	006	乳製品瓶	ヨーグルト瓶	9.7	4.3	4.9	4.1	広口	短首	なで肩	断面円形	平底	紙栓・掛け紙	無色透明	印刷「<商標>」	岩手牛乳 (1937創業), 石塚硝子製瓶	昭和30年代
写真 図版	番号	遺構 名	台帳 No.	分類		寸法 (cm)				形態				栓種	色調・気泡等	陽刻, 印刷等	社名, 商品名, 製 瓶会社等	年代	
用途	細分	全高	口径	肩幅	底面	口部	首部	肩部	胴部	底部									
23	071	RD923	004	調味料瓶	ケチャップ瓶	8.9	3.8	4.7	3.9	広口	短首	なで肩	断面円形	平底	スクリュー	無色透明	印刷「AICHI TOMATO CO」	愛知トマト (1949設立, 1963-カゴメ)	昭和24～38年
23	072	検出面	001	調味料瓶	マヨネーズ瓶 (底部のみ)	-	-	-	5.8	欠損	欠損	欠損	断面円形	平底	欠損	無色透明, 気泡	陽刻「東京中野・食品工業株式会社」	食品工業 (1919創業, 1957キユーピー)「エニビーマヨネーズ」 (1925発売)	昭和初期
写真 図版	番号	遺構 名	台帳 No.	分類		寸法 (cm)				形態				栓種	色調・気泡等	陽刻, 印刷等	社名, 商品名, 製 瓶会社等	年代	
用途	細分	全高	口径	肩幅	底面	口部	首部	肩部	胴部	底部									
23	073	RD934	002	食品瓶	佃煮瓶	8.5	3.9	4.9×4.2	3.6	広口	短首	いかり肩	断面縦長楕円形	平底	スクリュー	無色透明	陽刻「<商標>」	純屋 (1920創業), 川口硝子 (1950発売), 新東洋硝子川口硝子製瓶	昭和30年代

第8表 細谷地遺跡第40次調査出土近現代ガラス瓶観察表(2)

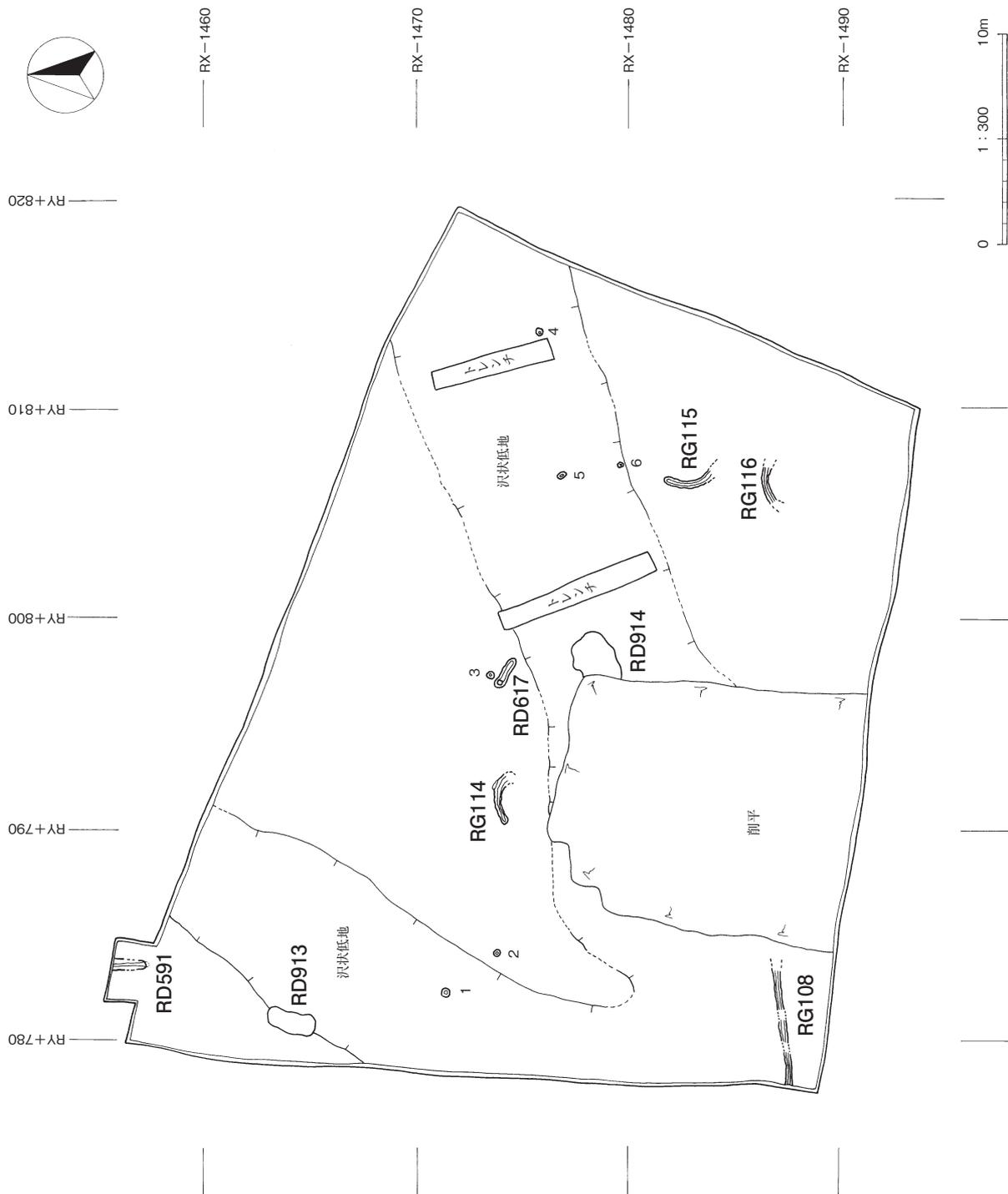
写真 図版	番号	遺構 名	台帳 No.	分類		寸法 (cm)				形態					栓種	色調・気泡等	陽刻、印刷等	社名、商品名、製 瓶会社等	年代
				用途	細分	全高	口径	肩幅	底面	口部	首部	肩部	胴部	底部					
23	074	RD921	003	薬瓶	一般用薬瓶	11.2	2.3	5.1	3.7	細口	短首	いかり肩	断面円形	平底	コルク	褐色透明、気泡、 ゆがみ	陽刻肩「オキシフル (OXYPULL) 底「くひしSマ ーク> 82」	三共製薬 (1899 設立)、過酸化水 素「オキシフル」 (1914 発売)	昭和初期か
23	075	RD925	003	薬瓶	一般用薬瓶	7.9	2.4	4.2×2.4	4.0×2.2	細口	短首	いかり肩	断面楕長 長方形 (楕円風)	平底	コルク	褐色半透明	陽刻肩「オーカン」縦	クミアイ (農家組 合員向け家庭薬 1919)「オーカン」 (皮膚鎮痛薬)	昭和20年 代以前か
23	076	RD925	004	薬瓶	一般用薬瓶	5.8	2.0	4.3×2.6	3.8×2.0	細口	短首	いかり肩	断面楕長 長方形	平底	スクリー	褐色半透明	陽刻側面<島マーク>三 重 「ユモール」	三重薬品工業 (1946 設立) 胃腸 薬「ユモール」	昭和20年 代か
24	077	RD931	006	薬瓶	殺虫剤瓶	23.5	2.6	6.2	5.7	細口	長首	なで肩	断面円形	平底	王冠	淡青色透明、気泡	陽刻肩「登壇本舗 大下町本店」 「専費特許 フマキラー」 胴 「300cc」底「0」	大下町本店 (1890 創業、1950 株式会社、1982 フマキラー 株式会社)、「強力フマキラー 」(1924 発売特許)	昭和25～ 37年(昭和 20年代か)
24	078	RD924	011	薬瓶	殺虫剤瓶	23.0	2.6	6.1	5.5	細口	長首	いかり肩	断面円形	平底	王冠	褐色半透明	陽刻肩「バルサン」 「強力殺虫剤」底「0<まる TO マーク>」底ナールグ	「バルサン」(中外製薬 1954 発売)	昭和30年 代か
写真 図版	番号	遺構 名	台帳 No.	分類		寸法 (cm)				形態					栓種	色調・気泡等	陽刻、印刷等	社名、商品名、製 瓶会社等	年代
				用途	細分	全高	口径	肩幅	底面	口部	首部	肩部	胴部	底部					
24	079	RD932	006	化粧瓶	椿油瓶	9.8	1.0 (1.5)	5.9	4.2	細口	短首	いかり 肩	断面円形	平底	スクリー	無色透明	陽刻肩「ヒメ椿」	「ヒメ椿」(創業 1926 中村三興堂)	昭和30年 代か
24	080	RD924	013	化粧瓶	化粧ク リーム 瓶	5.6	3.6	4.9	3.5	広口	短首	いかり 肩	口広がり 円筒状 断面円形	平底	スクリー	白色不透明	陽刻肩縦線・ラベ ル枠、底「LAIT CREME ★」1」	平尾養平商店 (1878-1954)「レー トクレーム」(1909 発売)	大正～昭 和初期か
24	081	RD924	015	化粧瓶	化粧ク リーム 瓶	5.6	3.6	5.1	3.8	広口	短首	いかり 肩	口広がり 円筒状 断面円形	平底	スクリー	白色不透明	陽刻底「<商標>」	ウテナ (1927 創 業)「ウテナミル ククリーム」(1952 発売)か	昭和27年 以降
24	082	検出面	007	化粧瓶	化粧ク リーム 瓶	5.4	4.5	6.0×5.3	4.0	広口	短首	いかり 肩	口広がり 円筒状 断面楕円 形	平底	スクリー	白色不透明	陽刻底「<商標>」	ミツフ石鹸(1860- 1975)	昭和20年 代以前か
24	083	RD924	012	化粧瓶	化粧ク リーム 瓶	4.0	5.1	5.5	4.8	広口	短首	円筒形	断面円形	平底	スクリー	青緑色透明、気泡、 ゆがみ	陽刻底「<花椿 マーク>」	資生堂 (1872 創 業、商標「花椿」 1915)	昭和初期 か
25	084	RD921	005	化粧瓶	ボマー ド瓶	4.7	5.6	6.6	6.5	広口	短首	円筒形	断面円形	平底	スクリー	乳白色半透明	陽刻肩「うた椿」 縦書き・底「まる 3」	うた椿 (1956 創 業、1962- 黒ばら 本舗)	昭和31～ 37年
25	085	RD925	015	化粧瓶	ボマー ド瓶	4.8	5.6	6.4	6.7	広口	短首	円筒形	断面円形	平底	スクリー	乳白色半透明	陽刻肩縦線・底「ヒ メ椿」「ボマー ド」3」	「ヒメ椿」(創業 1926 中村三興堂)	昭和30年 代か
25	086	RD921	004	化粧瓶	ボマー ド瓶	4.8	5.6	6.5	6.4	広口	短首	円筒形	断面円形	平底	スクリー	白色不透明	陽刻肩ラベル枠・ 縦線、底「ケンシ シ1-5」	ケンシ精舎「ケン シ植物性ボマー ド」(1915 発売)	昭和初期か
25	087	RD925	018	化粧瓶	ボマー ド瓶	4.4	5.6	6.3	6.2	広口	短首	円筒形	断面円形	平底	スクリー	無色透明、気泡、 ゆがみ	陽刻肩列模様・ ラベル枠、底「G」	「ケンシボマー ド」か	昭和20～ 30年代か
25	088	RD931	008	化粧瓶	ボマー ド瓶	5.1	5.8	6.7	6.5	広口	短首	円筒形	断面円形	平底	スクリー	乳白色半透明	陽刻肩ラベル枠・ 縦線、底「3 6」	不明	昭和初期か
25	089	RD925	019	化粧瓶	ボマー ド瓶	4.7	5.4	6.2	6.3	広口	短首	円筒形	断面円形	平底	スクリー	無色透明、気泡、 ゆがみ	陽刻肩列模様・ ラベル枠	「ケンシボマー ド」か	昭和20～ 30年代か
25	090	RD925	020	化粧瓶	ボマー ド瓶	3.9	6.7	7.7	6.8	広口	短首	円筒形	断面円形	平底	スクリー	無色透明、気泡、 ゆがみ	陽刻肩列模様・ ラベル枠	「ケンシボマー ド」か	昭和20～ 30年代か
写真 図版	番号	遺構 名	台帳 No.	分類		寸法 (cm)				形態					栓種	色調・気泡等	陽刻、印刷等	社名、商品名、製 瓶会社等	年代
				用途	細分	全高	口径	肩幅	底面	口部	首部	肩部	胴部	底部					
25	091	RD923	006	文具瓶	糊瓶	5.6	4.0	4.6	4.2	広口	短首	円筒形	断面円形	平底	スクリー	緑色半透明、気泡、 ゆがみ	陽刻底「十」	不明	昭和初期か
25	092	RD925	007	文具瓶	糊瓶	5.4	4.1	4.5	4.0	広口	短首	円筒形	断面円形	平底	スクリー	緑色半透明、気泡、 ゆがみ	なし	不明	昭和初期か
25	093	RD921	007	文具瓶	インク瓶	6.4	2.6	5.4	5.0	細口	短首	いかり肩	断面円形	平底	コルク	緑色透明、気泡、 ゆがみ	なし	不明	昭和初期か



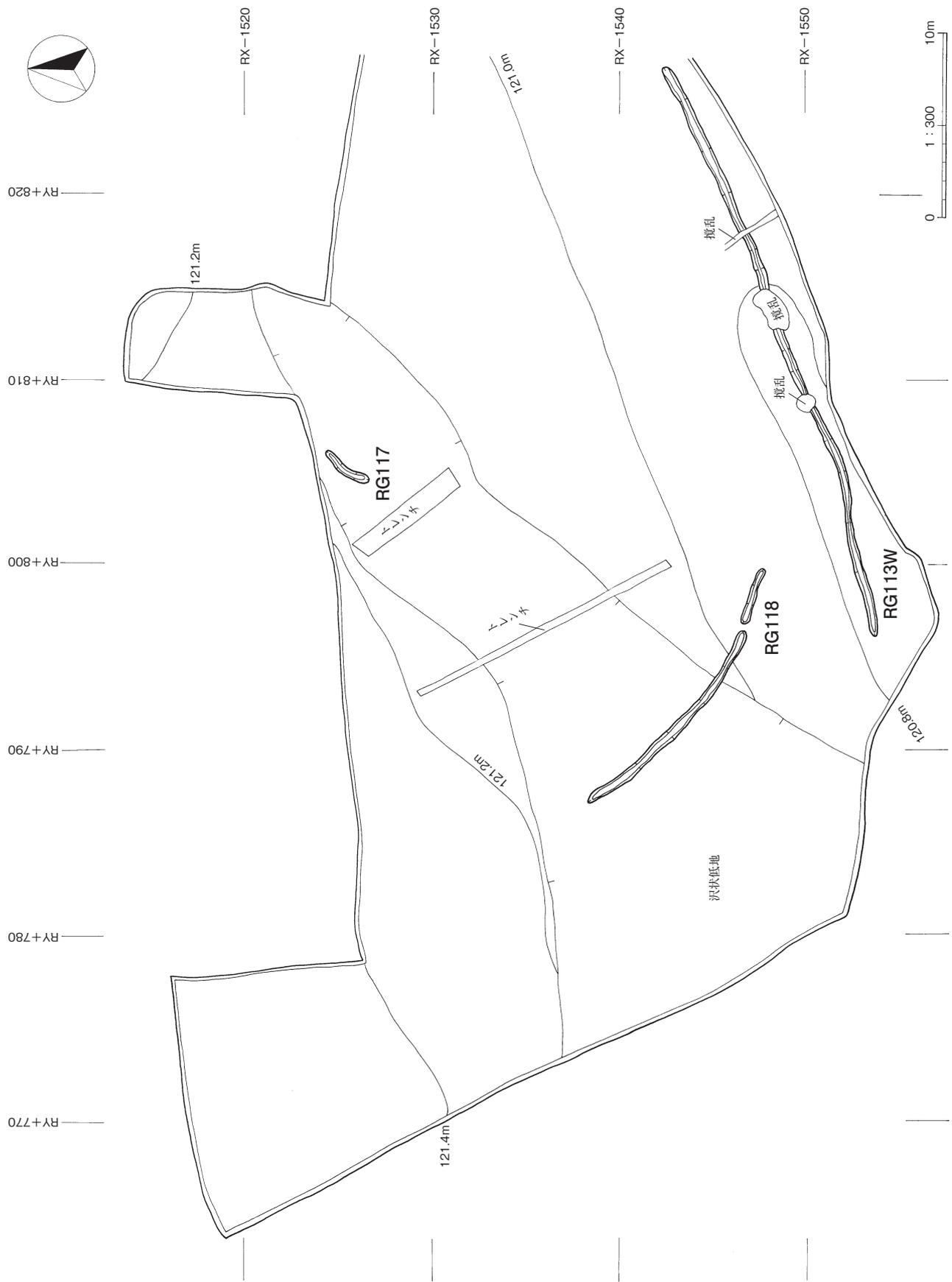
第1図 細谷地遺跡南東部（道明地区）全体図



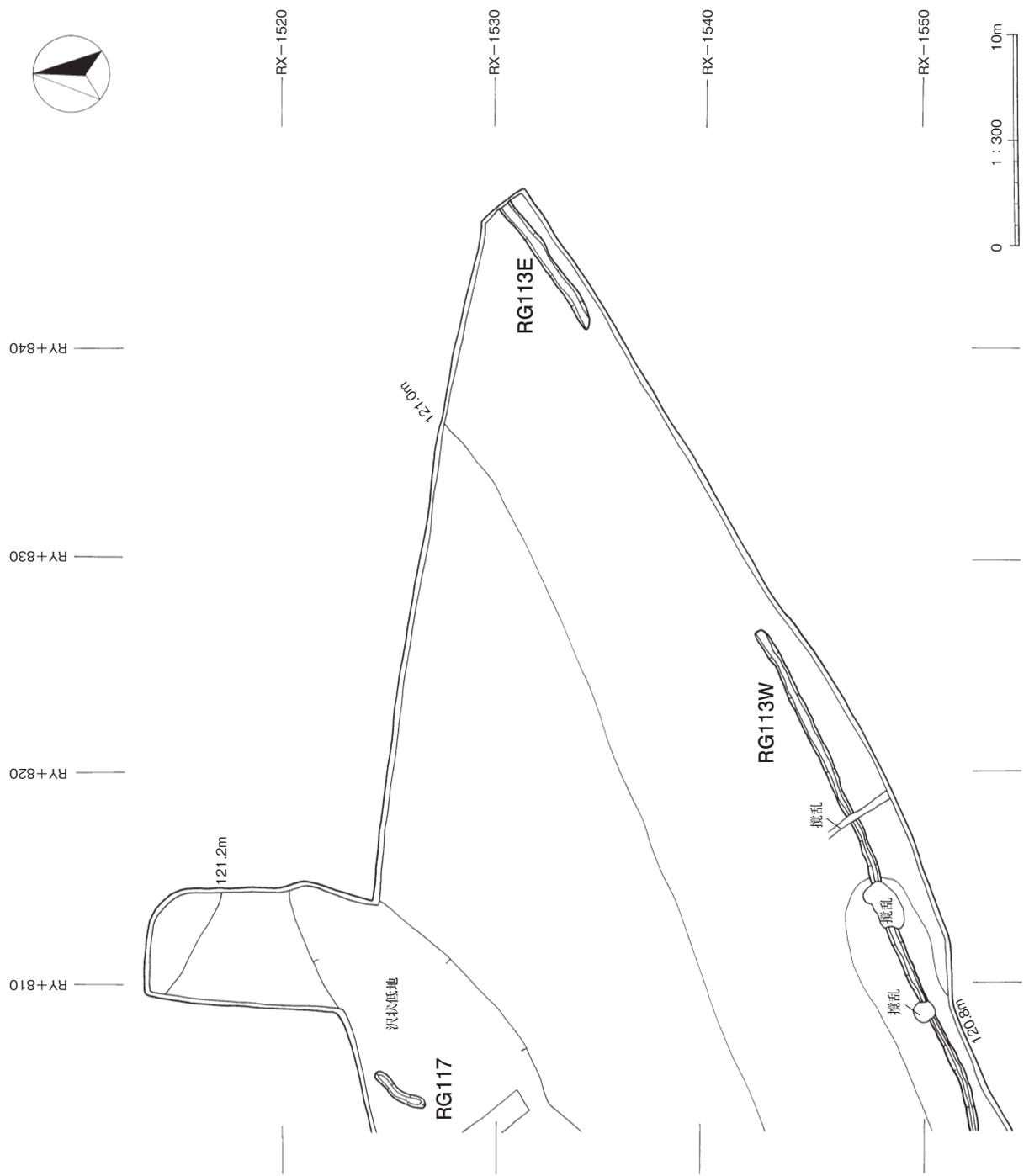
第2図 細谷地遺跡第37・38・40次調査区全体図



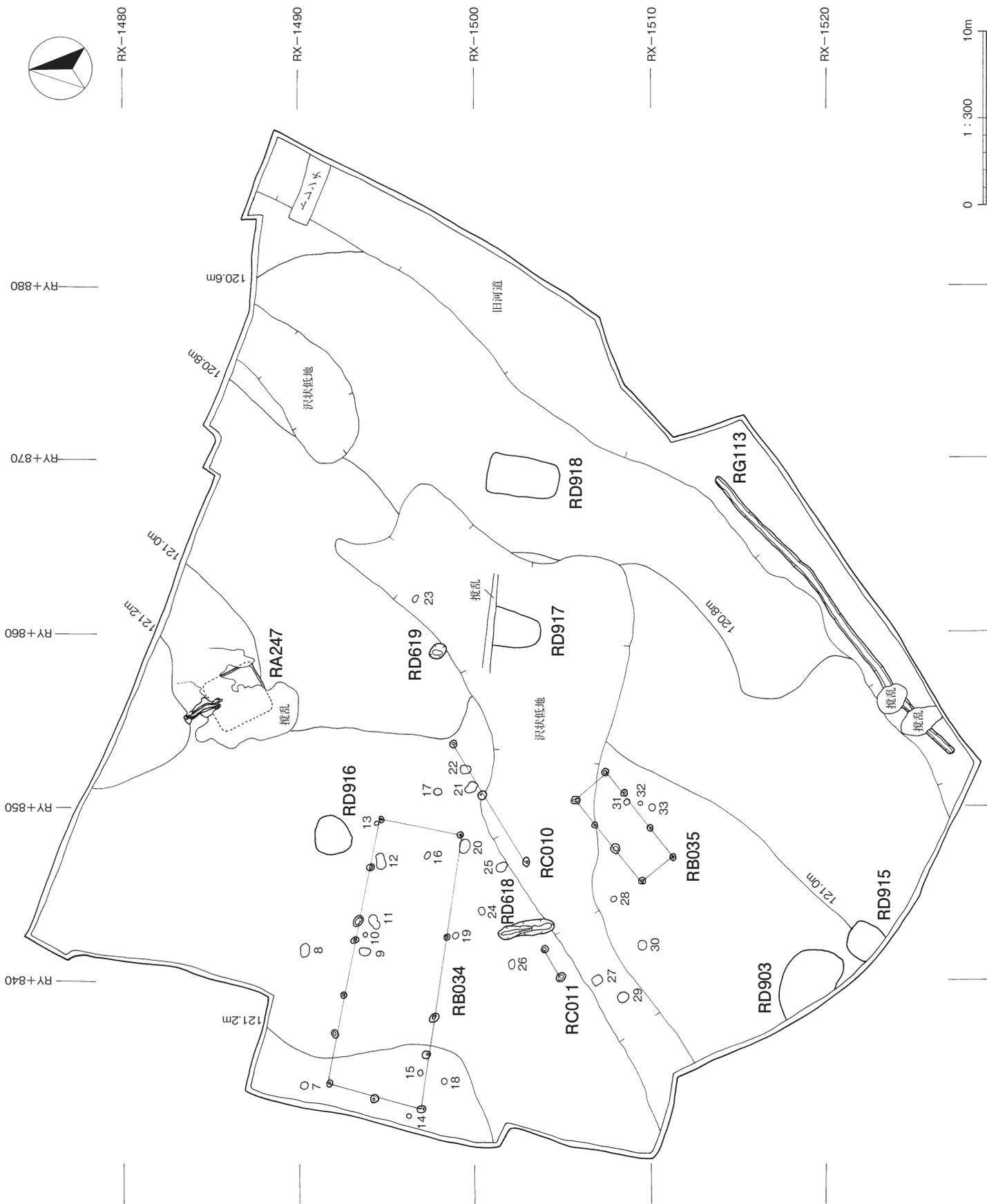
第3図 細谷地遺跡第38次調査I区全体図



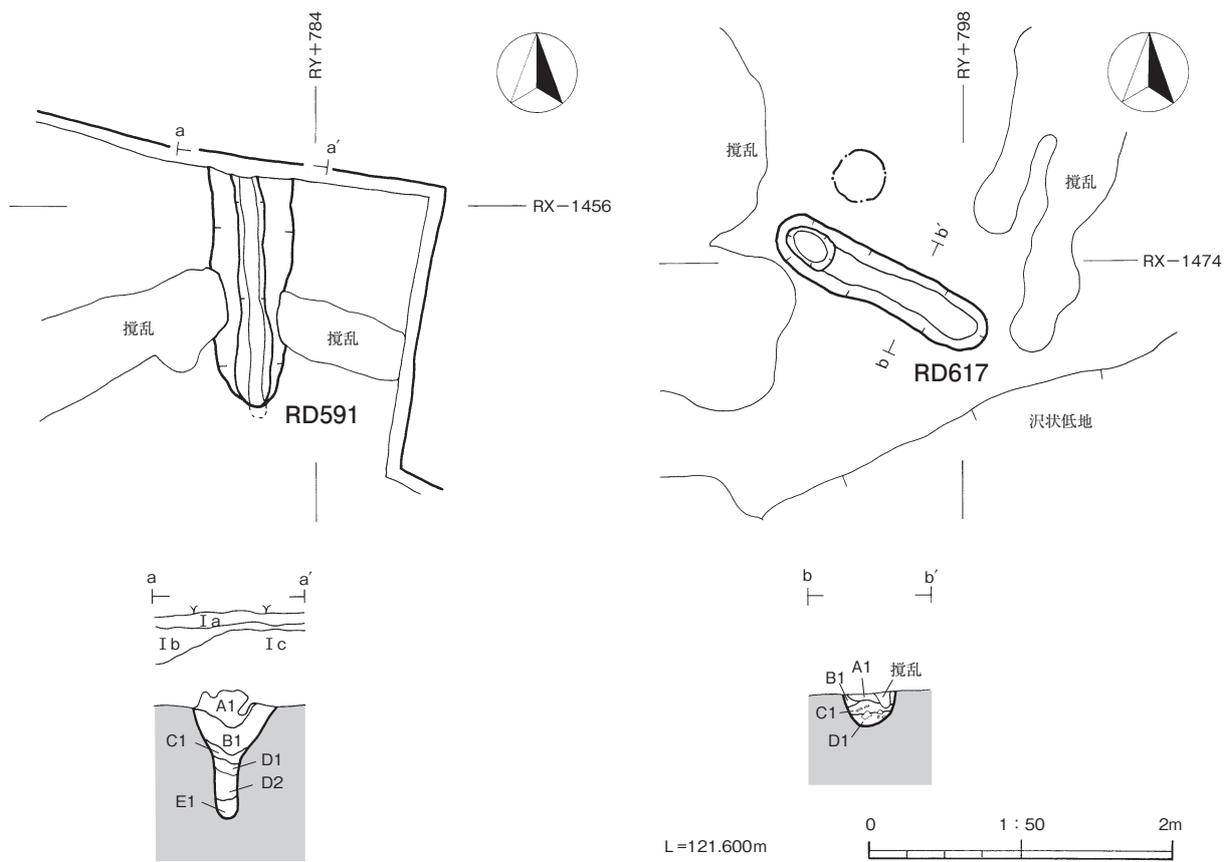
第4図 細谷地遺跡第38次調査Ⅱ区西半部全体図



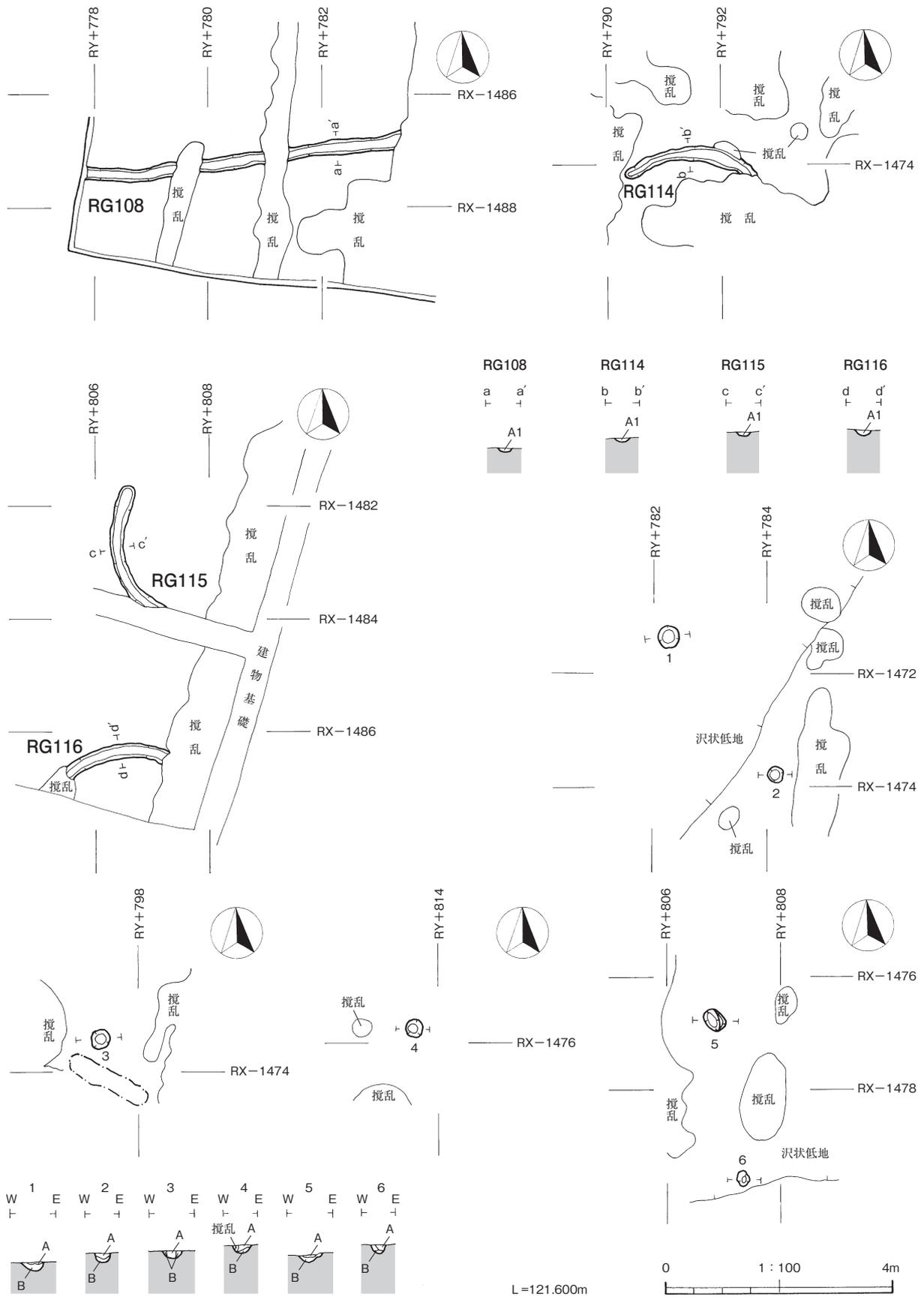
第5図 細谷地遺跡第38次調査Ⅱ区東半部全体図



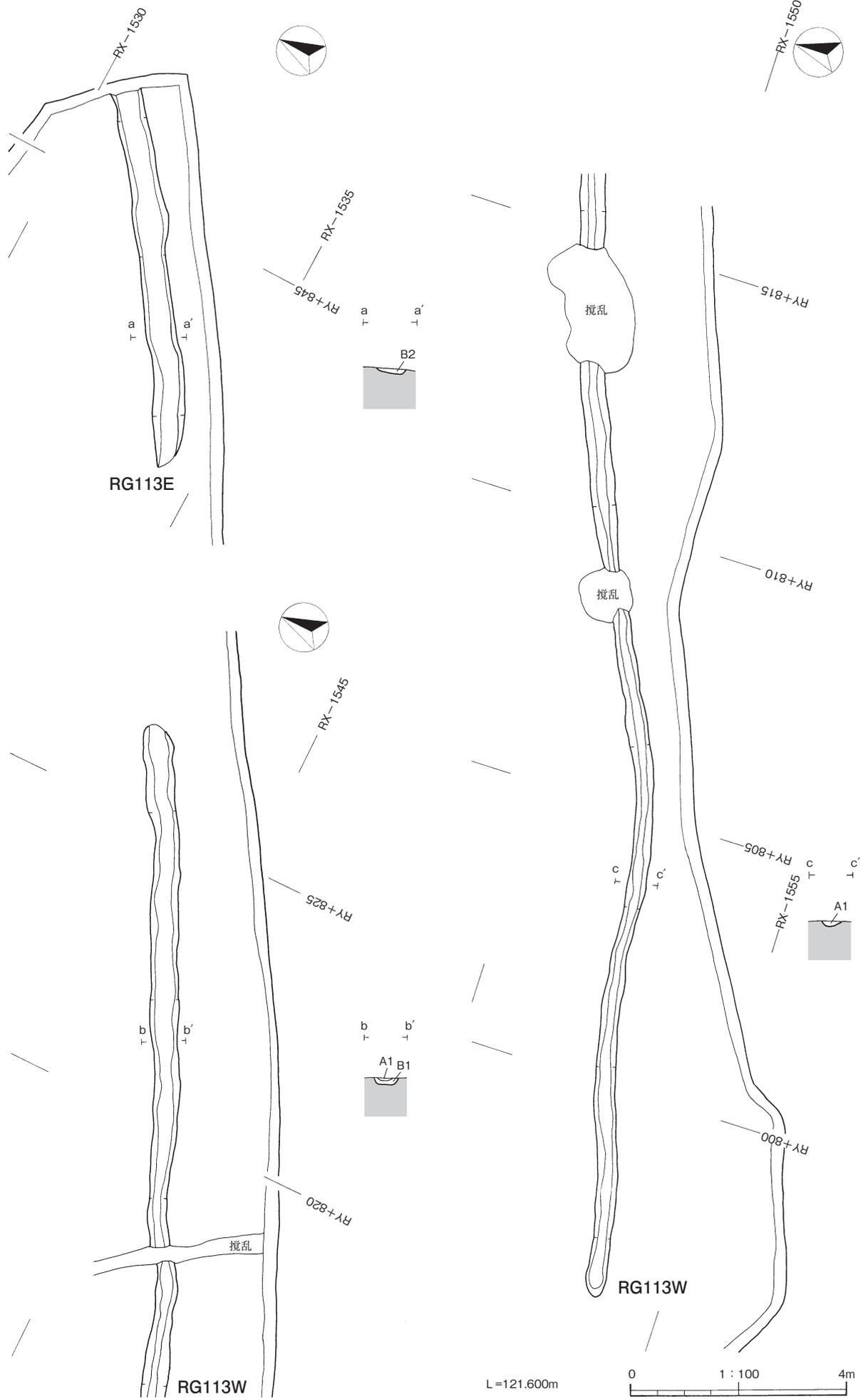
第6図 細谷地遺跡第38次調査Ⅲ区全体図



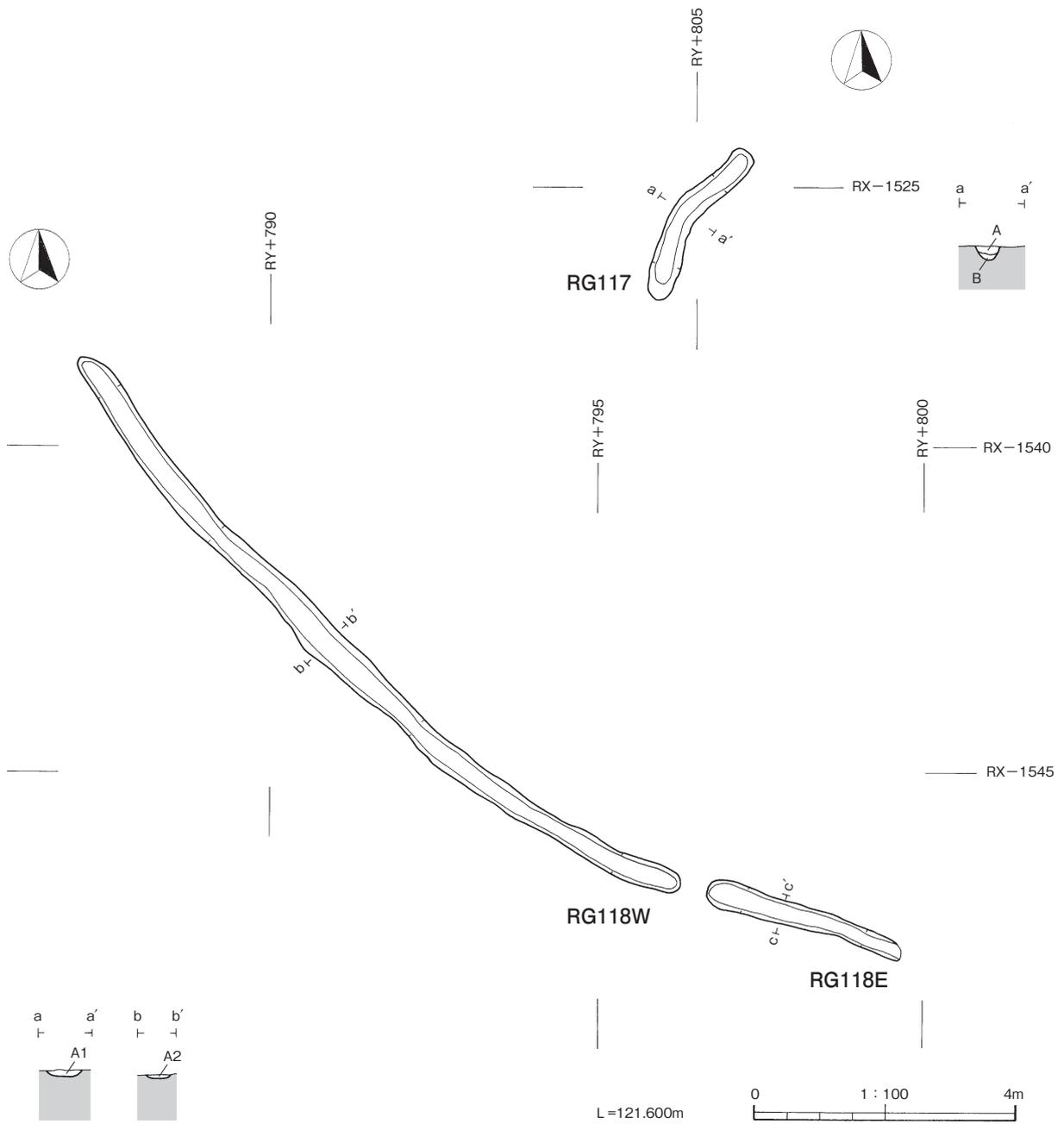
第7図 細谷地遺跡第38次調査I区 RD591 陥し穴, RD617 土坑



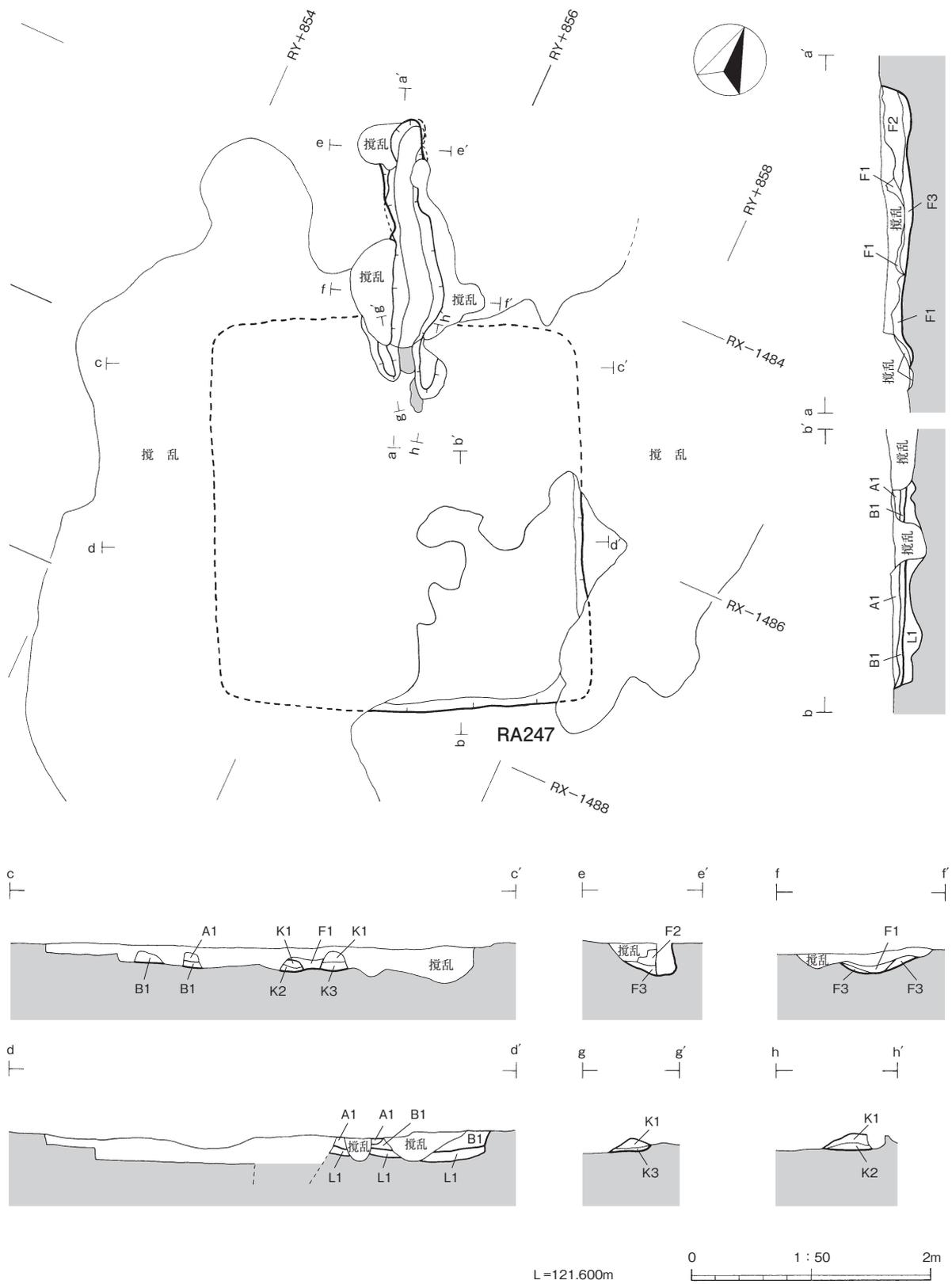
第8図 細谷地遺跡第38次調査I区 RG108・114～116 溝跡，ピット



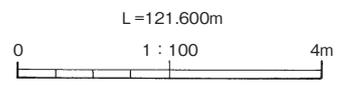
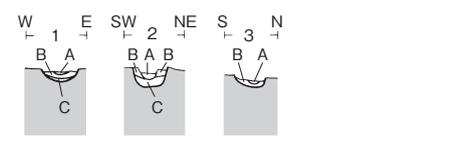
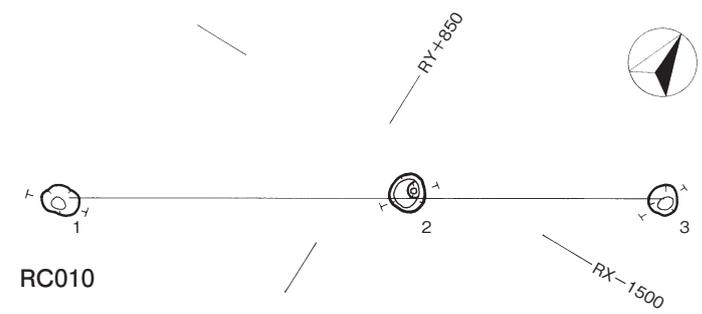
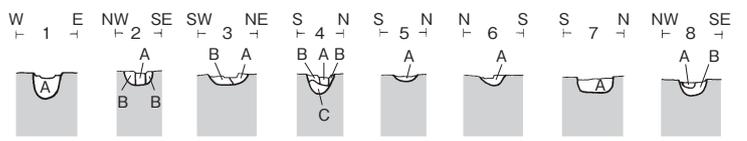
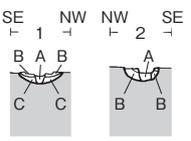
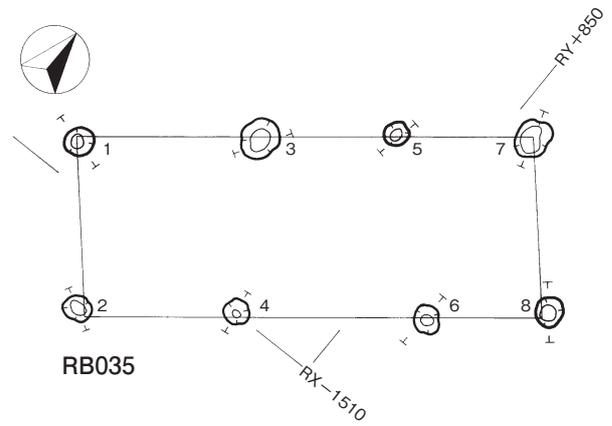
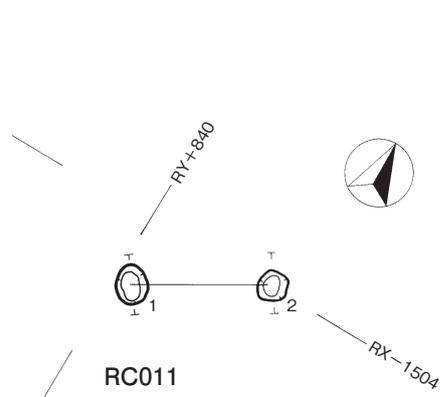
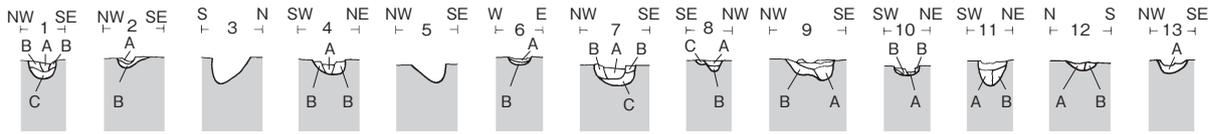
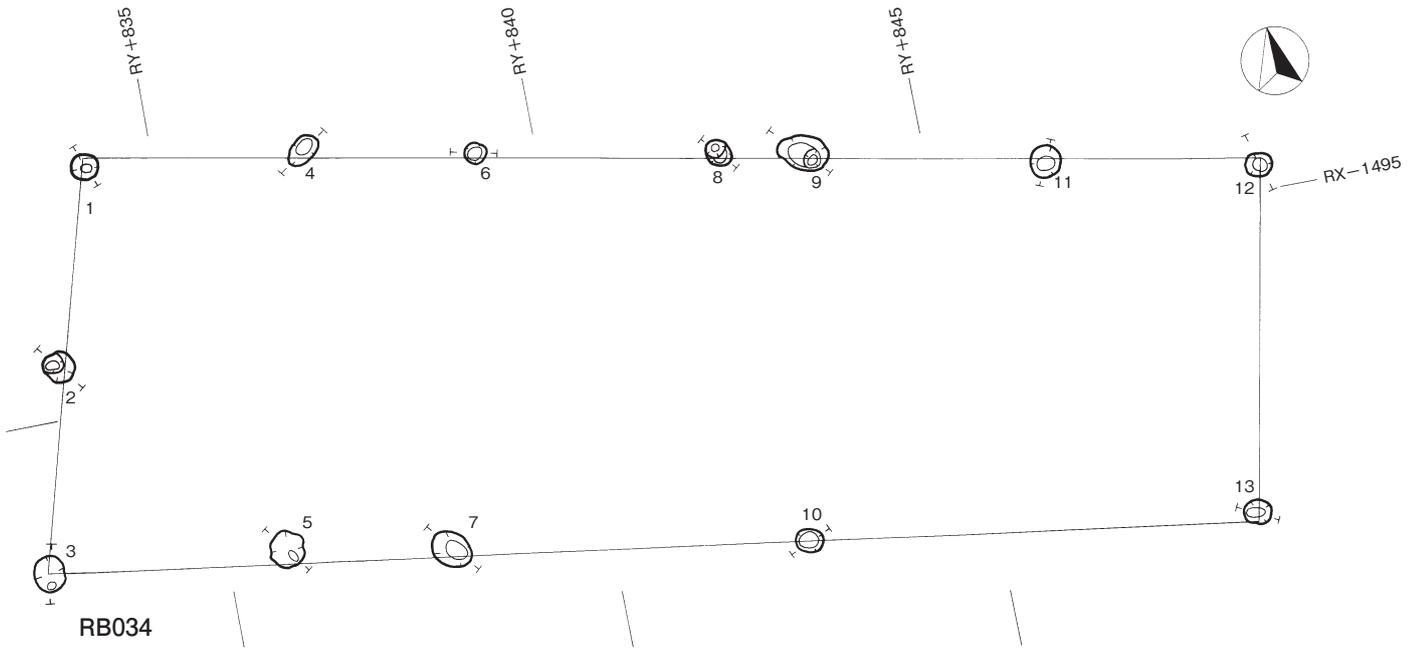
第9図 細谷地遺跡第38次調査Ⅱ区 RG113 溝跡



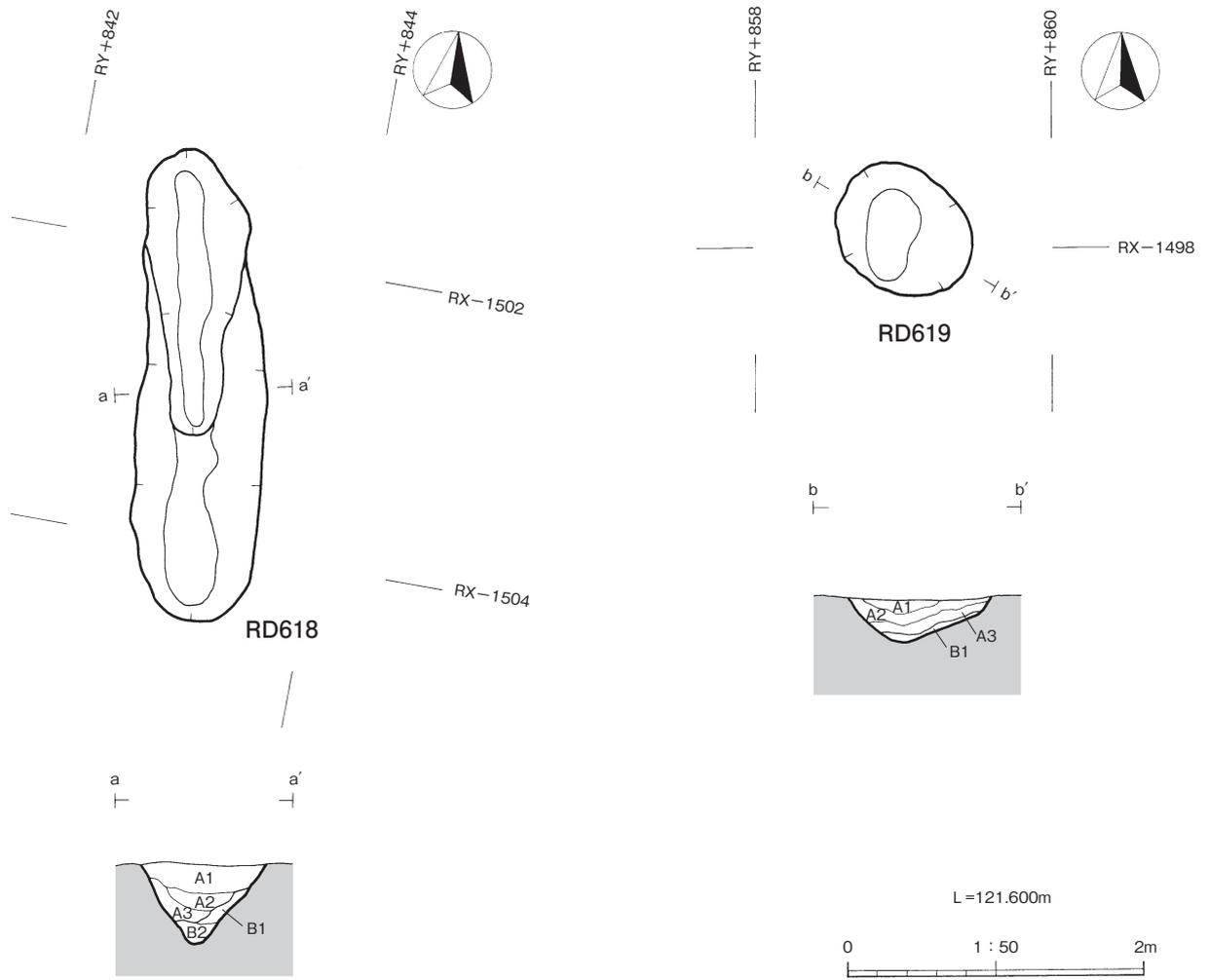
第 10 図 細谷地遺跡第 38 次調査Ⅱ区 RG117・118 溝跡



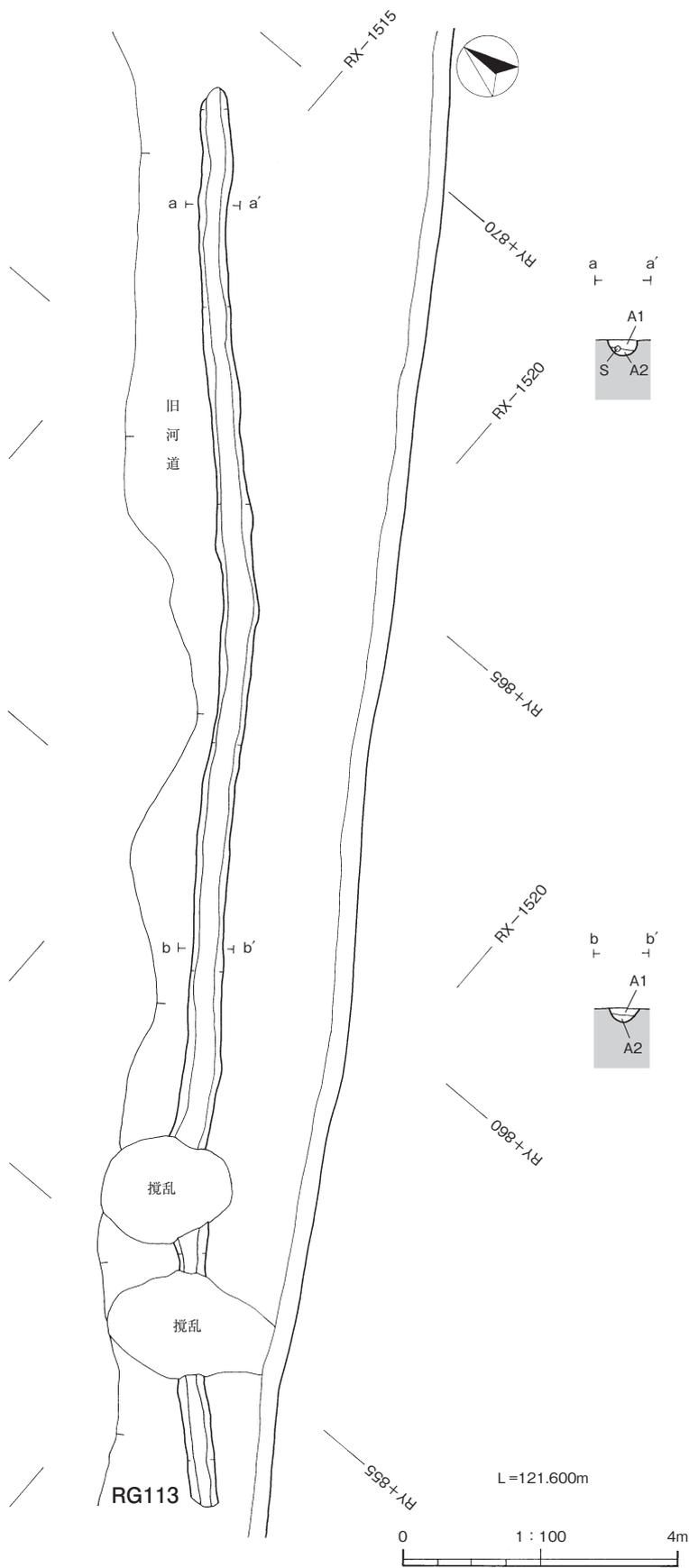
第 11 図 細谷地遺跡第 38 次調査Ⅲ区 RA247 竪穴建物跡



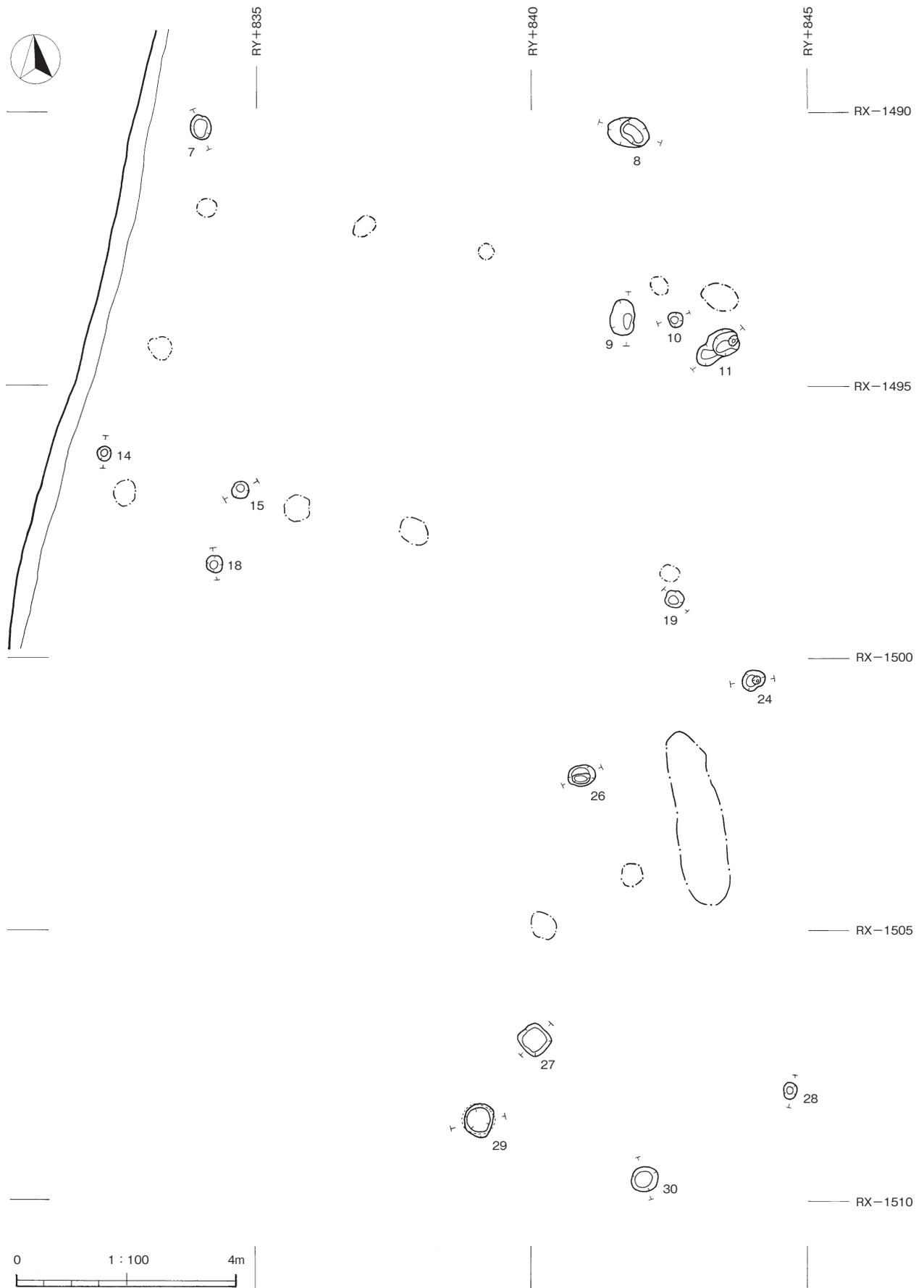
第 12 図 細谷地遺跡第 38 次調査Ⅲ区 RB034・035 掘立柱建物跡, RC010・011 掘立柱列跡



第 13 図 細谷地遺跡第 38 次調査Ⅲ区 RD618 陥し穴, RD619 土坑



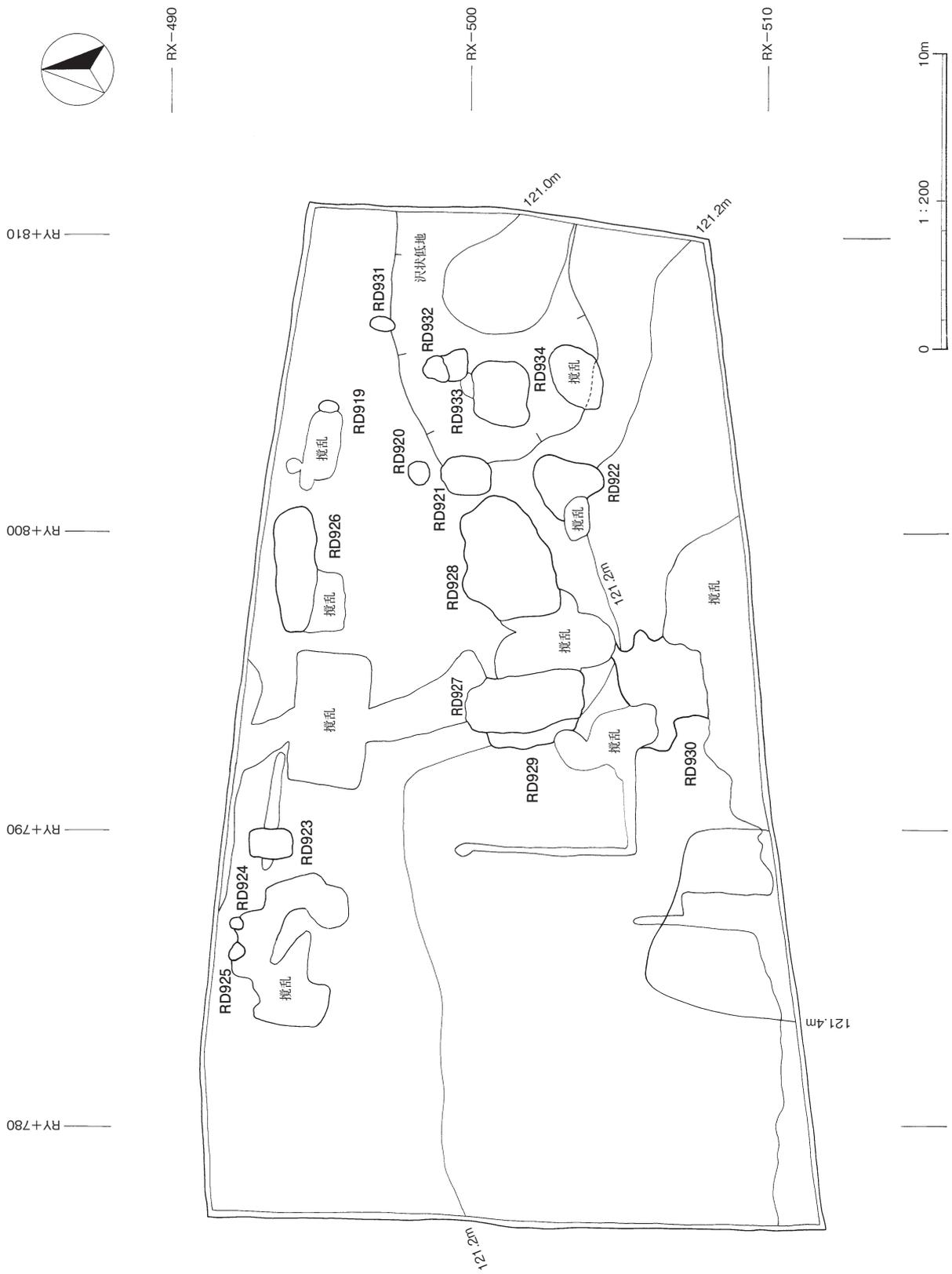
第14図 細谷地遺跡第38次調査Ⅲ区 RG113 溝跡



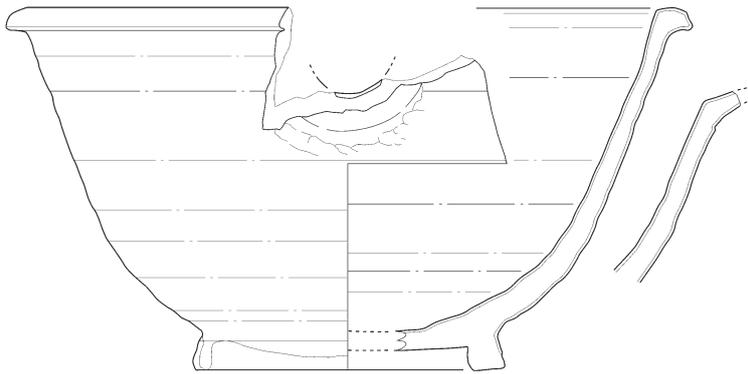
第15図 細谷地遺跡第38次調査Ⅲ区ピット(1)



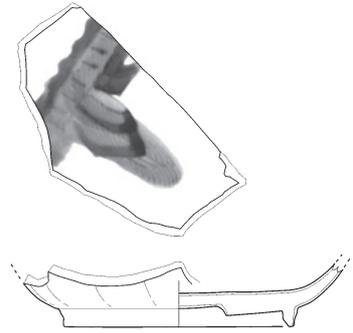
第16図 細谷地遺跡第38次調査Ⅲ区ピット(2)



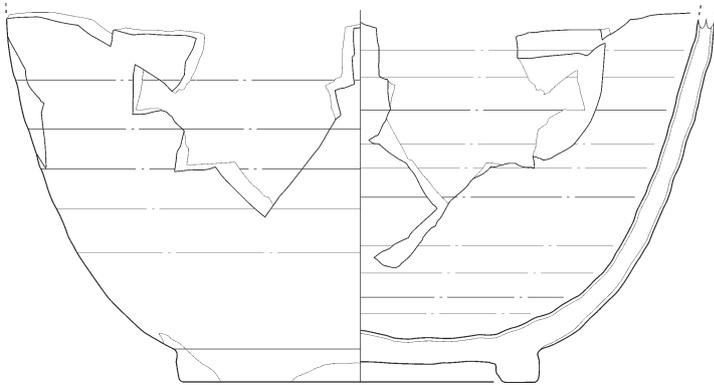
第 17 図 細谷地遺跡第 40 次調査区全体図



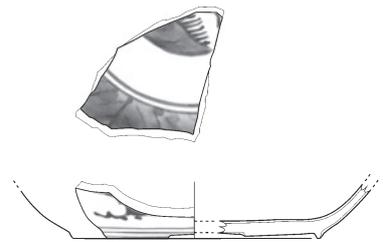
1 寺町焼灰釉片口鉢-RD916



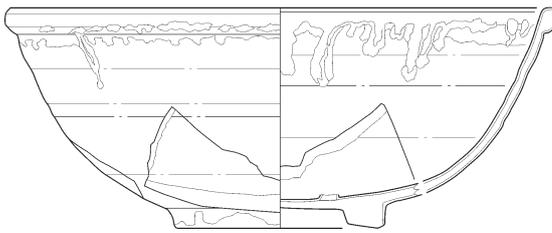
5 肥前染付輪花皿-RD915



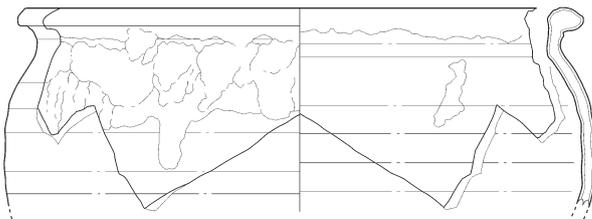
2 寺町焼灰釉鉢-RD916



6 肥前染付皿-II区表土



3 寺町焼灰釉・なまこ釉鉢-RD916



4 寺町焼灰釉・なまこ釉甕-RD916

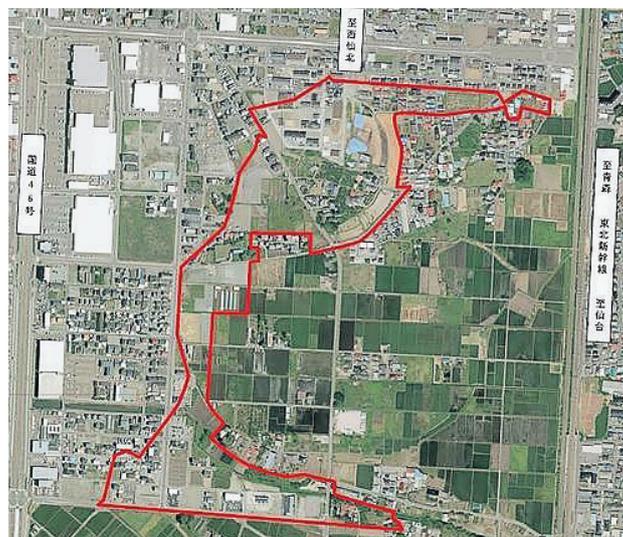


第18図 細谷地遺跡第38次調査出土近世陶磁器

写 真 图 版



盛岡南新都市土地区画整理事業区域（黄色）・道明地区土地区画整理事業変更前区域（右下白線）（平成 24 年撮影）



道明地区土地区画整理事業変更後区域（赤線）

第 1 図版 盛南開発地区航空写真



第 38 次調査 I 区全景（北から）



第 38 次調査 I 区全景（東から）

第 2 図版 細谷地遺跡第 38 次調査 (1)



第 38 次調査Ⅱ区全景（南から）



第 38 次調査Ⅱ区全景（西から）

第 3 図版 細谷地遺跡第 38 次調査 (2)



第 38 次調査Ⅲ区全景（北から）



第 38 次調査Ⅲ区全景（西から）

第 4 図版 細谷地遺跡第 38 次調査 (3)



RA247 竪穴建物跡（南から）



カマド・煙道



RD591 陥し穴・土層断面



RD618 陥し穴・土層断面



RD617 土坑



RD619 土坑

第5図版 細谷地遺跡第38次調査(4)



Ⅱ区 RG113 溝跡 (西から)



Ⅲ区 RG113 溝跡 (北東から)



RG108 溝跡 (東から)



RG114 溝跡 (東から)



RG115 溝跡 (北から)



RG116 溝跡 (東から)



RG117 溝跡 (北東から)



RG118 溝跡 (北西から)

第6図版 細谷地遺跡第38次調査(5)



第 40 次調査区全景（南東から）



第 40 次調査区全景（北東から）

第 7 図版 細谷地遺跡第 40 次調査 (1)



第 40 次調査区全景（北西から）



RD924



RD925



RD919



RD923



近現代廃棄土坑

第 8 図版 細谷地遺跡第 40 次調査 (2)



肥前染付，瀬戸・美濃染付



花古焼染付角皿－ RD915



寺町焼灰釉片口鉢－ RD916



寺町焼，国産陶器鉄絵



寺町焼灰釉鉢－ RD916

第9図版 細谷地遺跡第38次調査出土近世陶磁器



飯茶碗 (RD916, No.001)
ゴム印判



飯茶碗 (RD915, No.004)
手描き



飯茶碗 (RD915, No.005)
手描き



飯茶碗 (RD916, No.005)
手描き



飯茶碗 (RD903, No.002)
上絵



飯茶碗 (RD916, No.008)
子ども用, 上絵



飯茶碗 (RD916, No.010)
型紙刷



飯茶碗 (RD916, No.011)
型紙刷



碗 (RD903, No.007)
緑色釉



飯茶碗蓋 (RD903, No.001)
子ども用, 上絵



飯茶碗 (RD916, No.010)
型紙刷



飯茶碗 (RD916, No.011)
型紙刷



碗 (RD903, No.008)
上絵



皿 (RD903, No.009)
子ども用, 上絵 (カブト)



皿 (RD903, No.010)
上絵



皿 (RD915, No.014)
ゴム印判



皿 (RD915, No.016)
ゴム印判「内田米穀店」



皿 (RD916, No.028)
手描き



皿 (RD915, No.013)
銅版刷



皿 (RD916, No.024)
銅版刷

第 10 図版 細谷地遺跡第 38 次調査出土近現代陶磁器 (1)



皿 (RD916, No.023)
銅版刷



皿 (RD915, No.011)
型紙刷



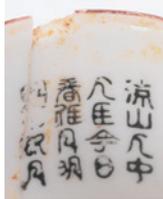
湯呑 (RD916, No.037)



湯呑 (RD915, No.026)



湯呑 (RD903, No.028)
上絵



湯呑 (Ⅱ区表土等, No.018)
手描き



盃 (RD903, No.029)
金文字「凱旋記□」右読み, 星印, 旭日旗



盃 (RD915, No.036)
金文字「下閉伊郡物産共進会」右読み



盃 (RD915, No.022)
型紙刷



統制陶器飯茶碗 (RD903, No.003)「岐□」



統制陶器皿 (RD903, No.036)「岐 172」



統制陶器湯呑 (RD903, No.037)「岐 452」



統制陶器化粧クリーム瓶 (RD916, No.052) ウテナマーク, 「岐 672」鏡文字

第 11 図版 細谷地遺跡第 38 次調査出土近現代陶磁器 (2)

〔01 酒瓶〕



高さ 27.5cm

001(No.023) ワイン瓶「大黒天印
宮崎葡萄酒」-RD915



5cm

〔02 清涼飲料瓶〕



高さ 8.5cm

高さ 5.6cm

002(No.043) ニッキ水瓶 -
RD916

003(No.025) ニッキ水瓶 -
RD915

〔03 乳製品瓶〕



004(No.039) 牛乳瓶「全乳 五勺」 -
RD916

全
乳
五
勺

5cm

高さ 13.9cm



全乳

180 cc

5cm

005(No.001) 牛乳瓶「全乳 180cc」 -
II区表土等



高さ 14.0cm

006(No.003) 牛乳瓶「市乳 180cc」 - II区表
土等



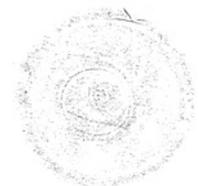
5cm



007(No.002) 牛乳瓶「岩中酪牛乳」(岩手中央酪農業協同組合)
「まる正 180cc」 - II区表土等



高さ 14.0cm



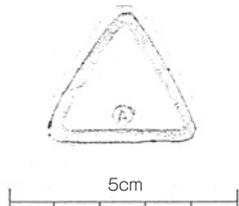
180cc

5cm

第 12 図版 細谷地遺跡第 38 次調査出土近現代ガラス瓶 (1)

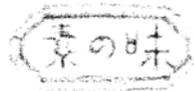
〔04 調味料瓶〕

高さ 8.3cm



008(No.024) コショウ瓶か
(キンケイ食品) -RD915

高さ 9.8cm



009(No.041) うま味調味料
瓶「味の素」-RD916

高さ 8.3cm



010(No.042) うま味調味料
瓶「味の素」-RD916

高さ 7.5cm



011(No.004) うま味調味料
瓶「味の素」- II区表土等

〔05 食品瓶〕

高さ 11.8cm



012(No.005) 食品瓶か -
II区表土等

高さ 8.5cm



013(No.006) 佃煮瓶か -
II区表土等

高さ 5.4cm



014(No.007) 食品瓶か -
II区表土等

(06 薬瓶)



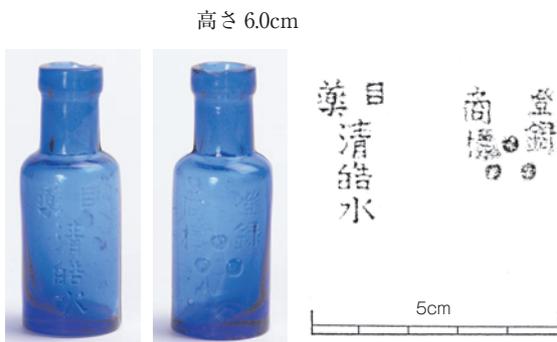
高さ 17.6cm

015(No.044) 医療用薬瓶「岩手病院」-RD916



高さ 11.6cm

016(No.045) 医療用薬瓶「昭 15」-RD916



高さ 6.0cm

018(No.008) 目薬瓶「清皓水」- II区表土等



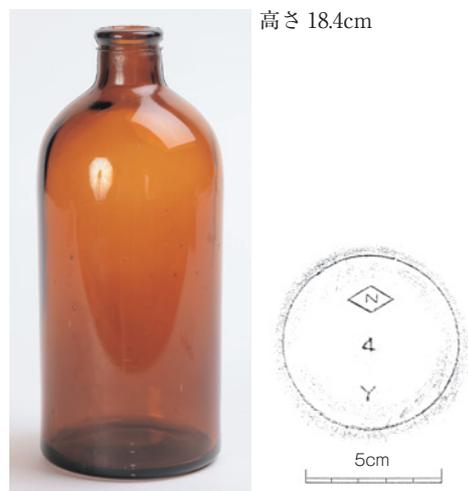
高さ 7.4cm

017(No.010) 一般用薬瓶「中島正露丸」
(大幸製薬) - II区表土等



高さ 7.9cm

019(No.009) 目薬瓶 - II区表土等



高さ 18.4cm

020(No.050) 薬品瓶 -RD916

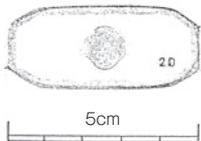
(07 化粧瓶)

高さ 11.2cm



021(No.028) 化粧水瓶「レートフード」- RD915

高さ 13.3cm



023(No.051) 化粧水瓶 (資生堂) - RD916

高さ 6.2cm



024(No.052) 椿油瓶 (本島椿) - RD916



026(No.029) 化粧クリーム瓶 (ウテナ) - RD915

高さ 12.3cm



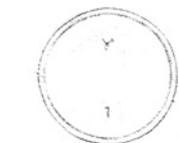
022(No.013) 化粧水瓶「ピカソ葉緑素乳液」- II区表土等

高さ 9.9cm

高さ 8.9cm



本島椿



024(No.052) 椿油瓶 (本島椿) - RD916



大島椿油協同組合制定
株式会社 大島椿製油所謹製



025(No.054) 椿油瓶 (大島椿製油所) - RD916

高さ 4.4cm

高さ 5.0cm



027(No.056) 化粧クリーム瓶 (レート) - RD916



028(No.016) 化粧クリーム瓶 (ボンジー本舗) - II区表土等

〔07 化粧瓶〕



029(No.060) 化粧クリーム瓶「薬用クラブ美身クリーム」-RD916 030(No.061) ポマード瓶「千代田ポマード」-RD916〔ウランガラス〕

〔08 文具瓶〕



031(No.032) ポマード瓶-RD915

032(No.033) インク瓶か- RD915

033(No.019) インク瓶「クリアーインキ」(大善工業)- II区表土等

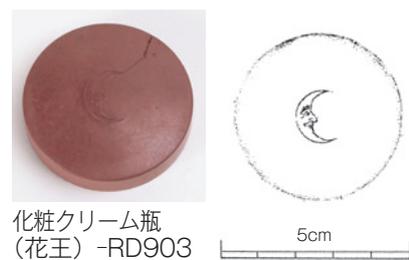
034(No.020) 染料瓶(増井商店食紅)- II区表土等

〔玩具・文具等〕



ミニチュア播鉢, ソフトビニール人形, ブリキ飛行機, 硯, 磁器製ボタン

〔プラスチック製品〕



化粧クリーム瓶(花王)-RD903

第 16 図版 細谷地遺跡第 38 次調査出土近現代ガラス瓶 (5), プラスチック製品, 玩具・文具等



磁器（肥前染付，花古染付）・陶器（唐津，国産陶器）



飯茶碗 (RD931, No.004) 型
おこし (松竹梅)・褐色釉・
薄緑色釉



飯茶碗 (RD924・925, No.
001) 型おこし (薔薇)・褐色
釉・灰色釉



飯茶碗 (RD924・925, No.
004) 型おこし (唐獅子牡
丹)・褐色釉



飯茶碗 (RD924・925, No.
003) 型おこし (鯉の滝登
り)・褐色釉



飯茶碗 (RD931, No.001)
吹き絵



飯茶碗 (RD924・925, No.
009) 吹き絵



飯茶碗 (RD924・925, No.
015) 吹き絵



飯茶碗 (RD924・925, No.
013) ゴム印判

第 17 図版 細谷地遺跡第 40 次調査出土近世陶磁器，近現代陶磁器 (1)



飯茶碗 (RD931, No.003)
手描き



飯茶碗 (RD924・925, No.010) 手描き



飯茶碗 (RD924・925, No.022) 手描き



飯茶碗 (RD924・925, No.012) 手描き



飯茶碗 (RD924・925, No.027) 子ども用, 上絵 (金魚)



皿 (RD934, No.003)
ゴム印判



皿 (RD930, No.002)
ゴム印判



飯茶碗 (RD924・925, No.011) 手描き, 「上源六製」



皿 (RD934, No.002)
ゴム印判



皿 (RD934, No.001)
手描き



飯茶碗 (RD924・925, No.026) 型紙刷



皿 (RD931, No.007)
銅版刷



皿 (RD924・925, No.045)
型紙刷



皿 (RD924・925, No.044)
銅版刷



皿 (RD930, No.001)
銅版刷, 「衣料品 はまや」



湯呑 (RD931, No.013)
ゴム印判



湯呑 (RD924・925, No.057)
手描き



湯呑 (RD924・925, No.059)
手描き



湯呑 (RD931, No.016)
手描き

第 18 図版 細谷地遺跡第 40 次調査出土近現代陶磁器 (2)



盃 (RD924・925, No.066) 銅版刷
「銘酒 岩手川 浜藤酒造店」



盃 (RD934, No.008) 金文字「原総理大臣閣下歓迎会 大正九年八月廿九日」
右読み、「記念」



盃 (RD931, No.018) 金文字「藤村」



統制陶器碗 (RD931, No.011) 「岐 932」



統制陶器碗 (RD934, No.012) 「岐 945」



化粧クリーム瓶蓋 (RD925, No.003)



化粧クリーム瓶 (RD925, No.002)



ミニチュア播鉢 (RD931, No.008)



磁器人形 (RD930, No.006)



化粧クリーム瓶蓋 (RD921, No.001) 「ネオパピロン」



駅弁醤油皿 (RD932, No.005) 「横浜駅 崎陽軒のシウマイ」



絵具皿 (RD924, No.004)

〔01 酒瓶〕

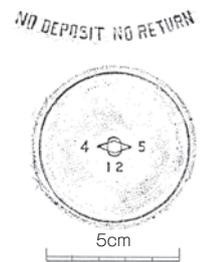


高さ 28.5cm



051(RD919, No.001) ビール瓶 (大日本麦酒)

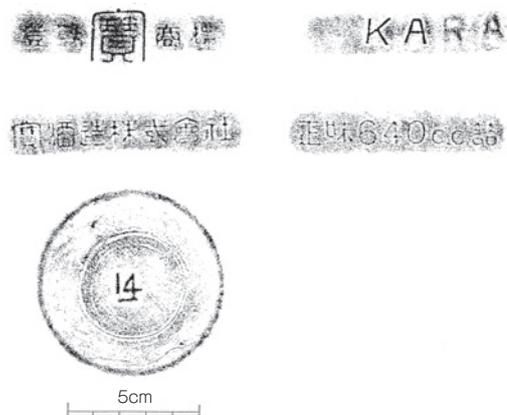
高さ 17.2cm



052(RD924, No.001) ビール瓶 (アメリカ製)



高さ 28.8cm



053(RD924, No.003) 日本酒瓶 (宝酒造)

高さ 23.3cm



054(RD924, No.002) 日本酒瓶 (協和発酵工業)

〔01 酒瓶〕

高さ 21.2cm



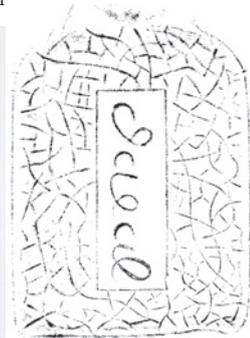
高さ 14.2cm



056(RD933, No.001) 日本酒瓶
「岩手川」(浜藤酒造店)

055(RD924, No.004) 日本酒瓶
(近三酒造店)

高さ 15.4cm



5cm

057(RD919, No.003) ウイスキー瓶 (宝酒造「アイ
デアルウイスキー」)

〔02 清涼飲料瓶〕

高さ 21.7cm (欠損)



BTK

大日本麦酒株式会社製造



5cm

059(RD924, No.005) サイダー瓶 (大日本麦酒)

高さ 15.3cm



5cm

058(RD925, No.002) ウイスキー瓶 (大黒葡萄酒
「オーシャンウイスキー」)

高さ 7.1cm



高さ 6.2cm (欠損)



061(RD921, No.001)
みかん水瓶



5cm

060(RD932, No.001)
乳性飲料瓶「ヤクルト」

〔02 清涼飲料瓶〕

高さ 17.5cm

高さ 20.1cm

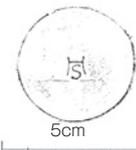


062(RD931, No.002) ラムネ瓶

063(RD924, No.007) ラムネ瓶
〔川原ラムネ〕

高さ 19.8cm

高さ 20.1cm



064(RD924, No.008) ラムネ瓶

065(RD924, No.006) ラムネ瓶

〔03 乳製品瓶〕

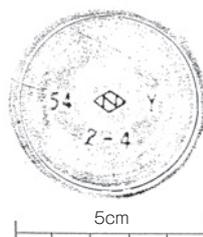
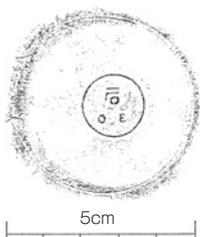
高さ 14.0cm

高さ 14.0cm



Ⓔ 180cc

Ⓔ 180cc



066(検出面, No.003) 牛乳瓶
〔小岩井牛乳〕

067(検出面, No.002) 牛乳瓶
〔小岩井牛乳〕

高さ 13.9cm



Ⓔ 180cc



068(RD918, No.001) 牛乳瓶 〔江川酪農株式会社〕

〔03 乳製品瓶〕

高さ 7.0cm



069(検出面, No.005) ヨーグルト瓶「岩手ヨーグルト」(岩手牛乳)

高さ 9.7cm



070(検出面, No.006) ヨーグルト瓶「液状ヨーグルト」(岩手牛乳)

〔04 調味料瓶〕

高さ 8.9cm



071(RD923, No.004) ケチャップ瓶(愛知トマト)

(底部のみ)



072(検出面, No.001) マヨネーズ瓶「東京中野 食品工業株式会社」

〔05 食品瓶〕

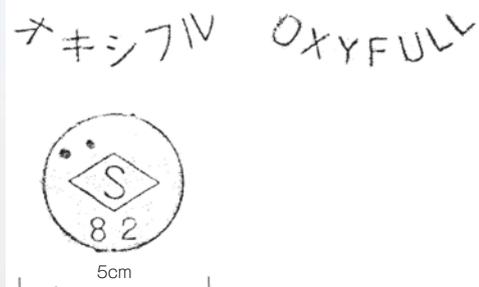
高さ 8.5cm



073(RD934, No.002) 佃煮瓶(桃屋「江戸むらさき」)

〔06 薬瓶〕

高さ 11.2cm



074(RD921, No.003) 一般用薬瓶「オキシフル」(三共製薬)

高さ 7.9cm



075(RD925, No.003) 一般用薬瓶「オーカン」(クミアイ)

高さ 5.8cm



076(RD925, No.004) 一般用薬瓶「エモール」(三亜薬品工業)

〔06 薬瓶〕

高さ 23.0cm

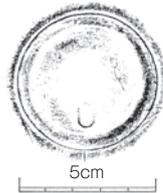


高さ 23.5cm

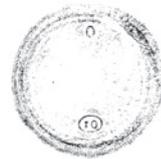
専售特許
フマキラー

發賣商
木下回春堂

300 c.c.



殺虫剤
バルサン・ゾール



077(RD931, No.006) 殺虫剤瓶「フマキラー」
(木下回春堂)

078(RD924, No.011) 殺虫剤瓶「バルサン・ゾール」
(中外製薬)

〔07 化粧瓶〕

高さ 9.8cm



ヒメ椿



079(RD932, No.006) 椿油瓶
「ヒメ椿」

高さ 5.6cm



080(RD924, No.013) 化粧
クリーム瓶「レートクレーム」

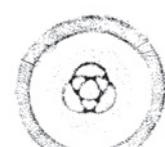
高さ 4.0cm

高さ 5.6cm

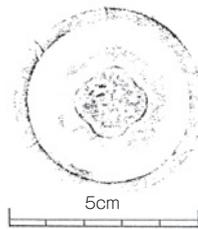


081(RD924, No.015) 化粧
クリーム瓶 (ウテナ)

高さ 5.4cm



082(検出面, No.007) 化粧
クリーム瓶 (ミツワ石鹸)



083(RD924, No.012) 化粧クリーム瓶か (資生堂)

〔07 化粧瓶〕

高さ 4.7cm



084(RD921, No.005) ポマード瓶 (うた椿)

高さ 5.1cm



088(RD931, No.008) ポマード瓶

高さ 4.8cm



085(RD925, No.015) ポマード瓶「ヒメ椿」(中村三興堂)

高さ 4.8cm



086(RD921, No.004) ポマード瓶 (ケンシ精香)

高さ 4.4cm



087(RD925, No.018) ポマード瓶

高さ 4.7cm



089(RD925, No.019) ポマード瓶

高さ 3.9cm



090(RD925, No.020) ポマード瓶

〔08 文具瓶〕

高さ 5.6cm



091(RD923, No.006) 糊瓶か

高さ 5.4cm



092(RD925, No.007) 糊瓶か

高さ 6.4cm



093(RD921, No.007) インク瓶

ノベルティグラス (RD918, No.001) (ニッカウキスキー)





第 26 図版 「アサヒビール」ポスター（大日本麦酒株式会社，中国向け）
〔縦 75.3cm × 横 49.1cm，上下辺金具，昭和初期，個人蔵〕

報告書抄録

ふりがな	せいなんちくいせきぐんはくつちようさほうこくしょ 13							
書名	盛南地区遺跡群発掘調査報告書Ⅻ							
副書名	道明地区土地区画整理事業関連遺跡平成 30・令和元年度発掘調査 細谷地遺跡							
編者名	津嶋知弘							
編集機関	盛岡市遺跡の学び館（刊行：盛岡市・盛岡市教育委員会）							
所在地	〒 020-0866 岩手県盛岡市本宮字荒屋 13 番地 1 電話 019-635-6600							
発行年月日	2021 年 1 月 31 日							
ふりがな	ふりがな	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
所収遺跡名(略号)	所在地	市町村	遺跡番号	(世界測地系)			(㎡)	
細谷地 (OHY)	岩手県盛岡市向中野 5・7丁目、字細谷地	03201	LE26-0214	39° 40' 42"	141° 8' 19"	38 次：2018.7.2-8.23 2018.10.1-11.30 39 次：2019.7.3 40 次：2019.10.1-10.24	4,451 53 595	土地区画整理事業 宅地造成 土地区画整理事業
所収遺跡名	種別	主な時代		主な遺構		主な遺物		特記事項
細谷地 38 次	集落	縄文時代 古代 古代以降 近世 近現代		陥し穴 2 堅穴建物 1・溝 1 土坑 2・溝 6 掘立柱建物 2・掘立柱列 2 ピット 廃棄土坑 7		土師器 陶磁器 ガラス瓶、陶磁器		
細谷地 39 次	集落	-		なし		なし		トレンチ
細谷地 40 次	集落	近世 近現代		廃棄土坑 7		陶磁器 ガラス瓶、陶磁器		
要約	盛南地区遺跡群は、平安時代初頭の延暦 22 年 (803) に朝廷が造営した古代城柵「志波城」の南東方に位置し、7 世紀より続く一大勢力「志波エミシ」が 10 世紀まで拠点とした古代集落群が主に確認されている。本書掲載の盛南地区遺跡群内で第二の規模の古代集落である細谷地遺跡では、1 棟の堅穴建物跡を精査。遺跡南東部の集落の様相を明らかにすることができた。また、近世盛岡城下にあったと伝承される御用窯で焼かれた陶器、ガラス瓶をはじめ多くの遺物が出土した近現代「廃棄土坑」群などが確認された。							

盛南地区遺跡群発掘調査報告書Ⅻ

－道明地区土地区画整理事業関連遺跡平成 30・令和元年度発掘調査－
細谷地遺跡

令和 3 年 1 月 31 日

編集 盛岡市遺跡の学び館

〒 020-0866 岩手県盛岡市本宮字荒屋 13-1

電話 019-635-6600 FAX 019-635-6605

E-mail iseki@city.morioka.iwate.jp

URL <http://www.city.morioka.iwate.jp/>

遺跡の学び館

検索

発行 盛岡市・盛岡市教育委員会

印刷 河北印刷株式会社

〒 020-0015 岩手県盛岡市本町通 2 丁目 8-7

